

平成26年度
山口県教育委員会の点検・評価報告書
(平成25年度実施分)

(案)

平成26年9月
山口県教育委員会

目 次

◆点検・評価の概要	1
◆山口県教育委員会の活動状況に係る点検・評価	2
◆山口県教育委員会の事務事業の実施状況に係る点検・評価	11
◆評価結果の一覧	13

<施策の評価結果>

(1) 知・徳・体の調和のとれた教育の推進

1 キャリア教育の推進	16
2 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育内容の充実	16
3 学習指導の改善・充実	17
4 国際教育の推進	18
5 読書活動の充実	18
6 学校における人権教育の推進	19
7 体力向上の推進	19
8 食育の推進	20
9 健康教育の推進	20
10 特別支援教育の推進	21
11 幼児期における取組の充実	21
12 少人数教育の推進	22
13 生徒指導・相談体制の充実	23
14 進路指導の充実	23
15 社会教育施設等を活用した教育の充実	24

(2) 質の高い教育環境づくりの推進

16	教育施設・設備の整備、教育環境の向上	25
17	学校安全の推進	25
18	教職員の資質能力の向上	26
19	学校運営の活性化	27
20	校種間連携・一貫教育の推進	28
21	県立高校将来構想に基づく特色ある学校づくり	28
22	私学の振興	28
23	修学支援の充実	29

(3) 生涯にわたる県民総参加の教育の推進

24	家庭教育支援の充実	30
25	地域と学校が連携した子どもの育成	30
26	生涯学習の推進	31
27	地域社会における人権教育の推進	31
28	文化にふれあい親しむ環境づくりの推進	32
29	文化財の保護と活用	32
30	「輝く、夢あふれるスポーツ元気県やまぐち」の実現に向けた取組の推進	33

<緊急・重点プロジェクトの評価結果>

(1)	グローバル人財育成プロジェクト	34
(2)	ものづくり人財育成プロジェクト	35
(3)	確かな学力育成プロジェクト	36
(4)	豊かな心育成プロジェクト	37
(5)	子ども元気創造プロジェクト	38
(6)	魅力ある学校づくりプロジェクト	39
(7)	安心・安全な学校づくりプロジェクト	40
(8)	教職員人財育成プロジェクト	41
(9)	地域ぐるみの教育推進プロジェクト	42
(10)	世界スカウトジャンボリー開催プロジェクト	43

◆主な推進指標の到達状況

点検・評価の概要

1 点検・評価の目的

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「法」という。）第27条の規定により、教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行（以下「事務事業」という。）の状況について、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図りながら点検・評価を行い、報告書を作成し、議会に提出の上、公表することとされている。

山口県教育委員会は、法の趣旨を踏まえ、点検・評価を行い、その結果を公表することで、効果的な教育行政の推進と県民への説明責任を果たすこととする。

2 点検・評価の対象

(1) 山口県教育委員会の活動状況

(2) 山口県教育委員会の事務事業の実施状況

※「山口県教育振興基本計画」の施策体系に基づき、点検・評価を実施

<参考：根拠条文>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）抜粋

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

山口県教育委員会の活動状況 に係る点検・評価

1 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会会議等の開催状況

山口県教育委員会は、平成25年度に、教育委員会会議等を17回(定例会11回、臨時会3回、教育委員協議会3回)開催し、議案62件、報告事項49件、協議事項49件の審議等を行った。

【教育委員会会議等の開催状況】

回	開催月日	定例会	臨時会	協議会等	議案	報告事項	協議事項	備考
1	平成25年4月25日(木)	○			3	8	1	
2	平成25年5月16日(木)			○			2	
3	平成25年5月23日(木)	○			7	2		
4	平成25年6月6日(木)	○			4	2	2	
5	平成25年6月28日(金)		○		2			
6	平成25年7月23日(火)	○			2	2		移動教育委員会
7	平成25年8月27日(火)	○			2	5	3	
8	平成25年9月10日(火)	○			3	2	4	
9	平成25年10月7日(月)		○		2	2		委員長選挙
10	平成25年10月24日(木)	○			1	4	6	
11	平成25年11月5日(火)			○			10	
12	平成25年11月21日(木)	○			5	6	5	請願2件
13	平成25年12月18日(水)			○			1	
14	平成25年12月19日(木)	○			2	4	4	
15	平成26年1月23日(木)	○			4	4	3	
16	平成26年3月3日(月)		○		12	4	5	
17	平成26年3月24日(月)	○			13	4	3	
合計			17		62	49	49	

【移動教育委員会の開催(平成25年7月教育委員会会議)】

山口県教育委員会は、平成16年から毎年、通常、県庁内で行う教育委員会会議を県内各市町に出向いて行う移動教育委員会を開催し、議案の審議の他、地域の教育関係者との意見交換を行うことで、県民の方々から地域の声を直接聴くとともに、教育委員会の理解を深めていただいている。

平成25年度は以下のとおり岩国市で開催した。

- | | |
|-------|--|
| ○開催月日 | 平成25年7月23日(火) |
| ○場所 | シンフォニア岩国 大会議室(岩国市三笠町1番1号) |
| ○内容 | 議案 2件
報告事項 2件
意見交換 1件
意見交換テーマ
『未来を担う産業人財の育成について』 |
| ○傍聴者 | 76名 |

(2) 意見交換の実施

ア 教育委員会会議における意見交換

教育委員の教育課題への認識を深めるとともに、教育委員の意見を課題解決に反映させるため、定例の教育委員会会議において重要な教育課題について、意見交換を行った。

【意見交換の実施状況】

回	開催月日	意見交換テーマ	備考
1	平成25年5月23日(木)	教職員の資質能力の向上について ～養成・採用段階の取組～	
2	平成25年7月23日(火)	未来を拓く産業人財の育成に向けた取組について	移動教育委員会会議
3	平成25年8月27日(火)	特別支援教育の理解促進に向けた取組について	
4	平成25年9月10日(火)	学力向上対策について	
5	平成25年10月24日(木)	世界スカウトジャンボリー開催に向けた取組と国際教育の推進について	
6	平成25年11月21日(木)	コミュニティ・スクールの推進について	
7	平成25年12月19日(木)	学力向上対策について ～理数教育の充実について～	
8	平成26年1月23日(木)	いじめ問題への対応について	

≪教育委員の主な意見≫

◆第1回意見交換

テーマ『教職員の資質能力の向上について～養成・採用段階の取組～』

- 業務改善や労働条件の改善等を通じ、山口県の教員として就職したい、と思わせる魅力をつくることの必要性について言及した。
- 優秀な人材を確保するための方策について、山口県が積極的に進めている医師の確保についての取組等も参考にしてみてもどうかとの提案を行った。
- 学生時代にボランティアで施設等に行き、週に何回か授業のようなものを行ったり、外国の方に日本語を教えたりといった活動を行った者に対して、そうした活動が試験時に評価・配慮できるような仕組みづくりについて提案した。

◆第2回意見交換

テーマ『産業人財の育成に向けた取組について』

- 産業技術学校における役割の中で、離職者を早期に再就職させる役割が大きくなっていること、ハローワークでは既卒者対策に力を入れていること、既卒3年までは新卒として支援するようにしたこと等、関係機関の役割に変化がみられることについて言及した。
- 部活動を通じて、競技力の向上だけではなく、コミュニケーションの取り方など、発達段階に応じて必要な力を身に付けていけるよう指導を行っていくなど、生きる力や高い志を持った子どもたちの育成の必要性について言及した。
- 子どもたちが「次に頑張ろう」という姿勢を持てるよう、適切に褒めること、失敗は成功に結び付く経験であるということ等を教えながら育てていくことの

重要性について言及した。

- 世界に羽ばたいていく人材の育成に関して、日本の素晴らしい伝統・文化、歴史といったものを身に付けていくことの重要性について言及した。
- インターンシップの有効性について言及するとともに、こうした制度をできる限り時間を取って行うことについて提案を行った。

◆第3回意見交換

テーマ『特別支援教育の理解促進に向けた取組について』

- 特別支援教育の推進に関して、特別支援学校の対象者、障害種別、特別支援学校が行う教育の内容等の基礎的な部分の共通理解の重要性について言及した。
- 児童・生徒の障害状況に応じて、多様な学びの場や教育・指導の対応など、障害のある子どもが、その障害があることで不利益を被らないよう県独自の柔軟な対応システムを作ることの必要性について言及した。
- 障害のある児童・生徒と障害のない児童・生徒の交流、共同学習の一層の推進や様々な社会との接点を作ることの必要性について言及した。
- 障害のある子どもたちの義務教育終了後の受け入れについて、能力的には高等学校に通えるが、対人関係が上手くいかない等の問題で総合支援学校に通う子どもたちに対する取組の必要性について言及した。

◆第4回意見交換

テーマ『学力向上対策について』

- 全国学力・学習状況調査について、全国平均を下回っている子どもの状況についての分析・サポート方法の検討の必要性について言及した。
- 家庭での学習状況や、その際の「やまぐち学習支援プログラム」の活用状況等についてのアンケート実施を提案した。
- 「やまぐち学習支援プログラム」の活用を進めるため各家庭に対する一層の周知の必要性について言及した。

◆第5回意見交換

テーマ：『世界スカウトジャンボリー開催に向けた取組と国際教育の推進について』

- 日本スカウトジャンボリーの開催によって確認できた課題として、トイレやシャワーの数、熱中症対策等の改善の必要性について言及した。
- 児童生徒と海外のスカウトが交流できる機会の確保の重要性について言及するとともに、外国語を学ぶ機会とすること、習得度を高める等の取組の推進について提案した。

◆第6回意見交換

テーマ『コミュニティ・スクールの推進について』

- コミュニティ・スクールへの取組に伴う教職員の負担が増加している状況について言及した。
- 運営協議会に必要な人材の確保や、地域の活性化を進めるにあたって、地域住民等に対する取組の周知の重要性について言及した。

- 地域コーディネーターや運営協議会の委員等の役割に関して、複数の地域で同じ人が担っている現状があり、より多くの人に関わってもらえるような取組の必要性について言及した。
- 運営協議会の立ち上げに際して、地域住民の参画や導入初期の目的の設定の必要性について言及した。

◆第7回意見交換

テーマ『学力向上対策について～理数教育の充実について～』

- 自分が勉強していることが将来何の役に立つのかを認識できるようにするため、職場見学や現場実習といったキャリア教育と関連した学習意欲向上の取組を行うことの重要性について言及した。
- 大学等と連携した^{きら}燦めきサイエンス事業等の取組に参加した高校生に対し、そうした活動を大学入試等において評価する仕組み作りについて提案した。
- 身近な事物・現象や日常生活との関連性を取り上げ、生徒たちがわかりやすく、かつ、興味・関心が高まるように授業改善の取組を進めることの重要性について言及した。

◆第8回意見交換

テーマ：『いじめ問題への対応について』

- 学校間、教師間、教育委員会と教師間でのいじめに対する共通認識を持つことの重要性について言及した。
- スポーツ少年団や課外活動等、共通の目標に向かって団体で活動する中で礼儀・マナーを学ぶことや道徳教育の推進の重要性について言及した。
- 各学校に設置されるいじめ対策委員会に関して、組織が形骸化しないよう対策を講じることの重要性について言及した。

イ 公安委員会との意見交換

教育委員と公安委員会の異なる分野の連携の現状や、相互に関連する課題を取り上げ、具体的な取組やその改善に反映させるよう意見交換を行った。

平成25年度は、学校におけるいじめ問題の早期発見・早期対応を進めるため、学校と警察の連携によるいじめの防止・解決に向けた取組について、より実効性の高いものとなるよう意見を交換した。

○開催月日 平成25年12月19日（木）

○テーマ：『いじめ防止対策に向けた連携について』

≪教育委員の主な意見≫

- 教職員と保護者の連携、地域ぐるみでの子育てが必要であり、少年安全サポーターなどの外部の人間が学校に入ることの重要性について言及した。
- 警察OBの方が学校に入る等、問題行動が発生する前に抑えるための方法を模索する必要性について言及した。
- 少年安全サポーターとは別に設置されている少年サポートセンターについて、

保護者がその存在を知らない等の状況があることから、サポートセンターの職員も学校に出向く等、地域との関わりを深めることの必要性について言及した。

ウ 少年安全サポーターとの意見交換

深刻化する少年問題について、学校視察とは異なる視点で現場実態を理解・把握するため、現場で直接関わっている少年安全サポーターと意見交換を行った。

- | |
|--------------------|
| ○開催月日 平成26年2月6日(木) |
| ○場 所 教育庁教育委員室 |

《出席者の主な意見》

- 生徒の問題行動に関して、学校で問題を起こす場合、家庭でも何らかの問題があるか、家庭の力が弱いことが考えられ、関係機関との連携によりそうした家庭のフォローをしていく方法の検討が必要だと思う。
- 親が子どもの障害に気づいていても放置されている現状があるが、発達障害等の可能性がある子どもに対しては、幼稚園等の早い段階からケアを行っていくことや、そうした子どもを養育する能力の低い家庭へのサポートを行うことが重要。
- サポーターの主な活動について、従前は学校外のパトロールが主な活動だったが、平成25年からは学校からの依頼がない場合でも学校へ出向くようにしたことから、活動回数が大幅に増加している。教育現場と警察とのパイプ役はほとんどのサポーターが出来ていると思うので、今後は地域ボランティアの方との連携が重要になってくる。
- 教師に対して暴力を振るう生徒の更生については、何度も繰り返し話をしていくしかないが、集団でいるときは言うことを聞かないが、一人になると聞く生徒は多いので、声掛けは一人になった時に行う方が効果は高い。

(3) 県内視察等

教育委員が学校現場等の実態を把握することで、教育課題の認識を深めるとともに、教育委員会会議における審議等の活性化を図ることを目的として、種々の視察を行った。

ア 委員全員による合同視察

教育現場の実態を把握するため教育委員全員で学校視察を行った。

視察先の宇部総合支援学校は、昭和40年に県内初の養護学校「山口県立養護学校」として開校し、平成20年には高等部に産業科を設置するとともに、県内7地域に開設した「特別支援教育センター」を併設するなど、厚狭地域の特別支援教育の中核として機能している。

小・中・高を通じた進路学習の積み重ねや計画的・継続的な現場実習の実施、高等部各学年の進路専任教員と就職支援コーディネーターの連携による職場開拓の推進や、タブレット端末や電子黒板を活用したICT授業が行われていた。

また、地域との関わりについては、近隣の小・中・高等学校との交流等が図られていた他、地域コーディネーターを中心に地域の障害のある児童生徒等の相談支援や教員支援に取り組んでいた。

【座談会の開催】

委員全員による合同視察とあわせて、教育現場で活躍している教員の方々と座談会を行った。今後の特別支援教育の充実を図っていくための課題、取組等について教育現場の実情を把握するため、宇部総合支援学校長及び担当教員の方々と意見交換した。

- | | |
|--------|---|
| ○開催月日 | 平成25年11月26日（火） |
| ○場 所 | 山口県立宇部総合支援学校
(宇部市大字東須恵字吉信813番地) |
| ○テ ー マ | 『今後の特別支援教育の在り方について』 |
| ○出席者 | 宇部総合支援学校長及び教頭、教員3名（進路・研修・教務）、
地域コーディネーター |

《出席者の主な意見》

- 企業のニーズに沿えるような教育・支援をどのように進めていくかを検討する必要があるが、やはり報・連・相や指示に応じた頭の切り替え、自分が困った時に他人の支援を受け入れることが出来るよう指導する必要があると思う。
- 今後、総合支援学校が規模拡大していくのに伴い、児童生徒の障害も多様化してくると考えられ、また児童生徒の個別支援計画作成が充実してきている一方でその実践の難しさがあり、今後は教員の専門性を高めていく必要があると思う。
- 障害のある子どもを社会に通用するように育てるには、長い目で見た取組が大事である。今うまくいっていることが、今後もうまくいくとは限らないのが障害児教育の難しい面でもあるので、今はここまで出来れば良いという情報を先生方間で共有することも大事だと思う。
- 特別支援教育は障害のある人への教育であるとともに、障害のない人への教育でもあるので、近隣の学校との交流や共同学習の取組については、今後とも是非進めてほしい。

イ 巡回視察

共通のテーマのもと、原則として委員が2人1組になって、県内各地域を巡回視察した。

本年度は「日本ジャンボリーを契機とした国際理解教育の推進」及び「学力向上リーダー・推進教員を活用した授業の取組について」、「やまぐちサイエンスサポート指定校の取組について」をテーマとした視察を行い、中学校5校、高等学校3校、特別支援学校1校、その他2箇所を視察した。

【巡回視察先一覧】

回	視察月日	視察先	目的
1	平成25年8月5日（月）	防府市地域交流センター(アスパラート)	日本ジャンボリーを契機とした国際理解教育の推進 (日本ジャンボリーに係る地域プログラムの視察)
		防府市立華西中学校	
		防府商業・防府商工高等学校	

回	視察月日	視察先	目的
2	平成25年8月6日(火)	山口市民館	日本ジャンボリーを契機とした国際理解教育の推進 (日本ジャンボリーに係る地域プログラムの視察)
		山口市立徳地中学校	
		山口県立山口南総合支援学校	
3	平成26年1月24日(金)	岩国市立平田中学校	・学力向上推進リーダー・推進教員を活用した授業の取組について ・やまぐちサイエンスサポート指定校の取組について
		山口県立高森高等学校	
		山口県立高森みどり中学校	
4	平成26年1月29日(水)	山口市立宮野中学校	
		山口県立萩高等学校	

(4) 会議等出席・開催

全国都道府県教育委員会連合会総会などの全国会議や、中国5県教育委員会委員全員協議会等の会議出席、県市町教育委員長・教育長会議等の会議開催を通じて、教育行政に関する様々な情報を収集し、他の教育委員と意見交換を行った。

特に今後の教育委員会の在り方について、全国及び中国5県の両会議において、集中的に意見交換を行った。

ア 全国都道府県教育委員会連合会総会等の出席

都道府県教育委員会相互の連絡を密にし、相互に協力して教育行政の推進を図る全国都道府県教育委員会連合会による全国会議に教育委員長が出席した。

また、第1回総会の分科会では、各県の教育委員長が「今後の教育委員会制度改革について」意見交換を行った。

【出席会議一覧】

出席月日	会議名	開催場所
平成25年7月18日(木) ～ 平成25年7月19日(金)	全国都道府県教育委員会連合会平成25年度第1回総会	愛知県(メルパルク名古屋)
平成26年1月20日(月) ～ 平成26年1月21日(火)	全国都道府県教育委員会連合会平成25年度第2回総会	東京都(ホテルフロランオン青山)

イ 中国五県教育委員会委員全員協議会の出席

毎年、中国五県の教育委員会が持ち回りにより、各県の教育委員が一堂に会し、様々な教育課題に関して協議する協議会を開催している。

平成25年度は岡山県で開催し、全体討議として出席委員全員で「教育委員会の在り方」について議論するとともに、4つの分科会ごとに教育課題について意見交換した。

○開催月日 平成25年11月12日(火)～平成25年11月13日(水)
○場 所 ピュアリティまきび
(岡山県岡山市北区下石井 2-6-41)

- 講話
「今後の地方教育行政の在り方について」 文部科学省初等中等教育局
- 全体討議テーマ
『教育委員会の在り方について』
- 分科会テーマ
『子どもたちの健全な余暇の過ごし方及び土曜日授業の取組について』
『キャリア教育の推進とその視点について』
『児童生徒による暴力行為の発生を減少させる取組について』
『グローバル人材の育成に向けた取組について』

ウ 県・市町教育委員長・教育長会議等の開催

県、市町教育委員会委員が一堂に会し、県教委の重点取組事項の説明、意見交換及び研修等を通じて、県下の教育課題に関する相互の共通認識を深めるとともに、一層の連携強化を図る会議等を開催した。

- 開催月日 平成25年4月15日（月）
- 場 所 セントコア山口
(山口市湯田温泉3丁目2-7)
- 会 議 名 県・市町教育委員会委員長・教育長会議
県・市町教育委員会委員研修会議
- 意見交換テーマ 『やまぐちっ子の学力向上について』
- 講 演 『これからの時代に求められる学力を育むために』
- 事例発表 『教育のまち日本一を目指して～学問のまち「防府」創生～』

(5) 情報発信

教育委員会会議の開催日時や議題等をホームページに掲載し、会議の開催を広く周知した。

移動教育委員会の開催や会議録の要旨、教育委員の名簿をホームページに掲載するとともに、会議録要旨には発言した委員名を掲載し、引き続き開かれた教育委員会を目指して、情報公開に努めた。

また、教育委員の学校視察や意見交換会などの活動状況をトピックとしてホームページに掲載し、教育委員の活動の情報発信を行った。

2 教育委員会の活動の総括

- 25年度は、国において進められる「第2期教育振興基本計画」の策定や教育再生実行会議における教育再生の検討などの動きを注視するとともに、教育を取り巻く環境の変化や教育課題等に対応するため、教育委員会会議における様々な議案審議・協議をとおして、今後5年間の山口県教育の基本計画である「山口県教育振興基本計画」の策定を行った。

また、いじめの早期発見・早期解決のため、総合的かつ効果的ないじめ対策を推進するための基本方針である「山口県いじめ防止基本方針」や、子どもの読書活動をより一層推進するため、子どもの読書活動の推進に関する施策の方向性や取組を示す計画である「山口県子ども読書活動推進計画第3次計画」の策定、平成23年度に策定された「山口県特別支援教育ビジョン第2期実行計画」の中間見直しなど、教育行政に係る重要な方針決定を行った。

- 重要な施策の方向性の決定や計画の策定にあたっては、教育委員会会議における意見を踏まえるとともに、教育委員の認識を深めるため、定例会議の他に教育委員協議会を開催するなど、事務局や教育委員相互の意見交換を行った。
- ホームページ等を利用し、教育委員会の活動を広く県民に周知するとともに、地域の方の声や教育現場の実態を把握し、教育行政に反映させるため、市町に出向き、県民の方々に参加していただく移動教育委員会を開催した。
また、学校現場の実情を把握し、認識を深めるため、特定の教育課題を設定して教育委員全員が積極的に視察を行うとともに、学校関係者との座談会を行った。
- 以上のとおり、学校視察等を通して教育課題への認識を深めつつ、教育委員会会議や教育委員協議会で活発な議論・意見交換を行い、県教育行政の方針を決定するなど、教育委員会としての役割を遂行した。
- 今後とも、本県教育行政の一層の推進に向けて、国の動向、教育現場や地域の実情等を踏まえながら、教育委員会活動のさらなる活性化に努めていく。

山口県教育委員会の事務事業の 実施状況に係る点検・評価

事務事業の実施状況に係る点検・評価について

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第27条の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図りながら点検・評価を行い、その結果を公表し、効果的な教育行政の推進と県民への説明責任を果たす必要がある。

このため、平成25年度の取組について、「山口県教育振興基本計画(H25.10策定)」の施策体系に沿って点検・評価を行う。

1 点検・評価の方法

教育振興基本計画に掲げる30の施策、10の緊急・重点プロジェクトについて、できる限り定量的な状況を把握しながら取組状況を点検し、各項目の評価を行った。

(1) 施策の評価

各施策の「主な取組(■印)」ごとの実績や関連指標の到達状況を踏まえ、進捗状況を5段階(☆~☆☆☆☆☆)で示し、それを平均したものを施策全体の進捗状況として3段階で示した。

- [☆☆☆☆☆] 計画を上回り進捗
- [☆☆☆☆] ほぼ計画どおりで順調
- [☆☆☆] 一部に課題はあるが概ね順調
- [☆☆] 全体的に遅れている
- [☆] 大幅に遅れがある

主な取組の進捗	平均	星の数	評価結果
☆☆☆☆☆			3.7以上
☆☆☆☆		2.3以上3.7未満	一部に課題はあるが概ね順調
☆☆☆		2.3未満	取組に課題あり
☆☆			
☆			

(2) 緊急・重点プロジェクトの評価

各緊急・重点プロジェクトの「具体的な取組内容(◆印)」ごとの実績や関連指標の到達状況を踏まえ、進捗状況を5段階(☆~☆☆☆☆☆)で示し、それを平均したものをプロジェクト全体の進捗状況として3段階で示した。

- [☆☆☆☆☆] 計画を上回り進捗
- [☆☆☆☆] ほぼ計画どおりで順調
- [☆☆☆] 一部に課題はあるが概ね順調
- [☆☆] 全体的に遅れている
- [☆] 大幅に遅れがある

主な取組の進捗	平均	星の数	評価結果
☆☆☆☆☆			3.7以上
☆☆☆☆		2.3以上3.7未満	一部に課題はあるが概ね順調
☆☆☆		2.3未満	取組に課題あり
☆☆			
☆			

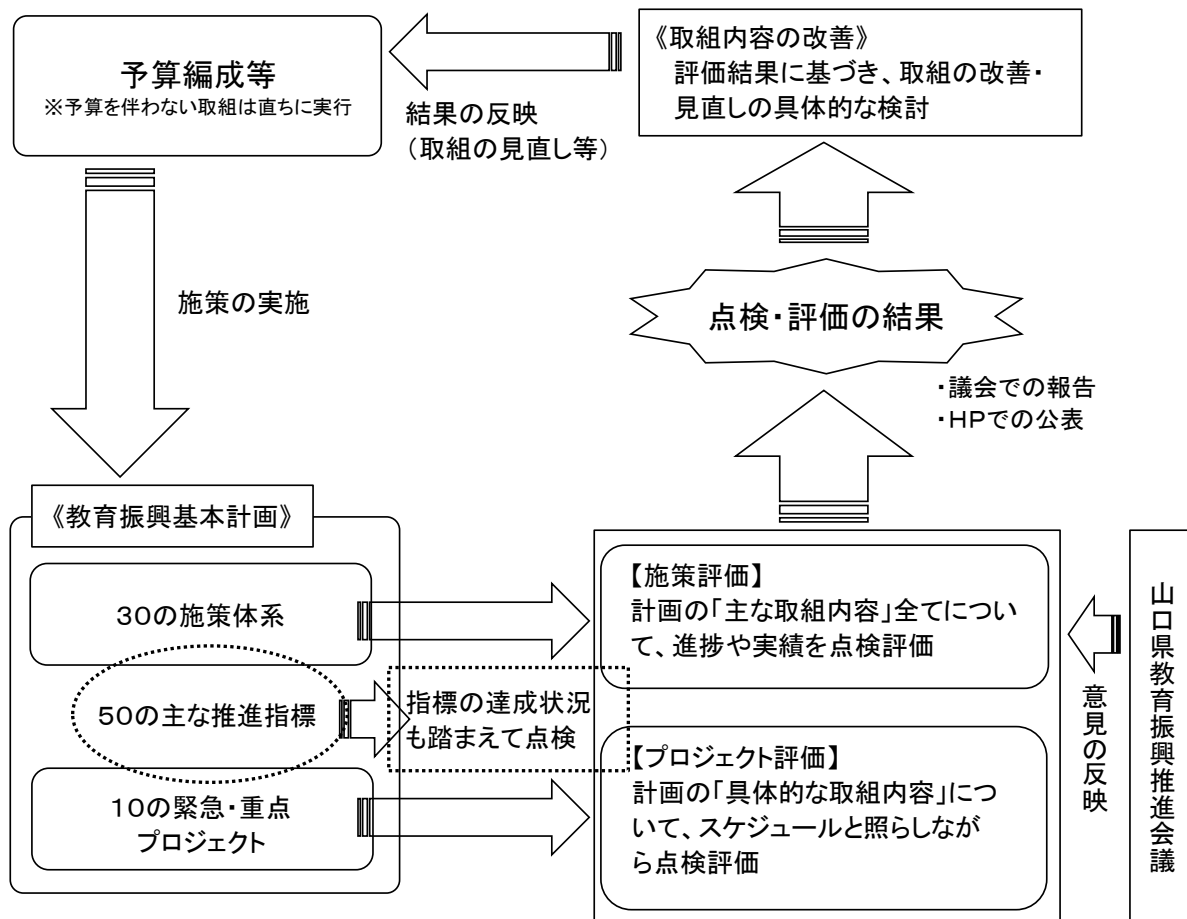
2 点検・評価の流れ

- ① 各施策と緊急・重点プロジェクトについて所管課（室）で点検
- ② 教育庁内において点検結果を踏まえた評価を実施
- ③ 教育振興推進会議の意見・提言を踏まえた最終案を教育委員会へ提案

3 点検・評価の結果の反映

点検・評価の結果、取組状況に課題があるものや、関連指標の目標に未到達となっているものについては、取組内容の見直し、改善を行うなど、次年度以降の取組に反映する。

[点検・評価結果の次年度以降の取組への反映のイメージ]



評価結果の一覧

1 施策の評価

柱	No	施策名	評価
知・徳・体の調和のとれた教育の推進	1	キャリア教育の推進	順調
	2	学習指導要領の趣旨を踏まえた教育内容の充実	順調
	3	学習指導の改善・充実	順調
	4	国際教育の推進	順調
	5	読書活動の充実	一部に課題はあるが概ね順調
	6	学校における人権教育の推進	順調
	7	体力向上の推進	一部に課題はあるが概ね順調
	8	食育の推進	順調
	9	健康教育の推進	順調
	10	特別支援教育の推進	順調
	11	幼児期における取組の充実	一部に課題はあるが概ね順調
	12	少人数教育の推進	順調
	13	生徒指導・相談体制の充実	一部に課題はあるが概ね順調
	14	進路指導の充実	順調
	15	社会教育施設等を活用した教育の充実	一部に課題はあるが概ね順調
質の高い教育環境づくりの推進	16	教育施設・設備の整備、教育環境の向上	一部に課題はあるが概ね順調
	17	学校安全の推進	一部に課題はあるが概ね順調
	18	教職員の資質能力の向上	順調
	19	学校運営の活性化	一部に課題はあるが概ね順調
	20	校種間連携・一貫教育の推進	順調
	21	県立高校将来構想に基づく特色ある学校づくり	順調
	22	私学の振興	一部に課題はあるが概ね順調
	23	修学支援の充実	順調
生涯にわたる県民総参加の教育の推進	24	家庭教育支援の充実	順調
	25	地域と学校が連携した子どもの育成	順調
	26	生涯学習の推進	一部に課題はあるが概ね順調
	27	地域社会における人権教育の推進	順調
	28	文化にふれあい親しむ環境づくりの推進	順調
	29	文化財の保護と活用	順調
	30	「輝く、夢あふれるスポーツ元気県やまぐち」の実現に向けた取組の推進	一部に課題はあるが概ね順調

2 緊急・重点プロジェクトの評価

No	プロジェクト名	評 価	2 6 年 度 以降の主な取組
1	グローバル人財育成 プロジェクト	順 調	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生の留学や社会貢献活動への支援充実 ・ 英語の使用機会の拡充等、語学力、コミュニケーション能力の育成
2	ものづくり人財育成 プロジェクト	一部に課題はあるが 概ね順調	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高度な資格取得の促進や全国大会等へ向けた取組の支援 ・ ガイダンスや求人開拓、マッチングなどきめ細かな就職支援の充実
3	確かな学力育成 プロジェクト	一部に課題はあるが 概ね順調	<ul style="list-style-type: none"> ・ 35人以下学級の維持継続 ・ 学力データのきめ細かな分析等による指導改善
4	豊かな心育成 プロジェクト	一部に課題はあるが 概ね順調	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化ふれあい事業や AFPY の活用等、文化芸術や体験活動の充実 ・ 「いじめ防止基本方針」に基づいた社会総がかりの取組の促進
5	子ども元気創造 プロジェクト	一部に課題はあるが 概ね順調	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「食事・運動・遊び・読書」90日元気手帳の活用等による「食育」「遊び・スポーツ」「読書」への一体的、継続的な取組
6	魅力ある学校づくり プロジェクト	一部に課題はあるが 概ね順調	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「次期県立高校将来構想」の策定、再編整備の推進 ・ 特別支援学校における児童生徒数増加への対応や職業教育の充実
7	安心・安全な 学校づくり プロジェクト	一部に課題はあるが 概ね順調	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県立学校の耐震化、市町立学校耐震化への働きかけ ・ 「学校安全推進計画」の策定
8	教職員人財育成 プロジェクト	順 調	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学等と連携したセミナーや説明会等による教員志願者の確保 ・ 研修の充実等、現職教員の育成
9	地域ぐるみの 教育推進 プロジェクト	順 調	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土曜日の教育活動の推進など「地域協育ネット」の仕組みの計画的、安定的な活用
10	世界スカウト ジャンボリー開催 プロジェクト	順 調	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界スカウトジャンボリーの開催支援 ・ 国際教育の充実等、大会を契機とした取組

施策の評価

《施策体系》

教育目標： 未来を拓くたくましい「やまぐちっ子」の育成

知・徳・体の調和のとれた教育の推進	①キャリア教育の推進
	②学習指導要領の趣旨を踏まえた教育内容の充実
	③学習指導の改善・充実
	④国際教育の推進
	⑤読書活動の充実
	⑥学校における人権教育の推進
	⑦体力向上の推進
	⑧食育の推進
	⑨健康教育の推進
	⑩特別支援教育の推進
	⑪幼児期における取組の充実
	⑫少人数教育の推進
	⑬生徒指導・相談体制の充実
	⑭進路指導の充実
	⑮社会教育施設等を活用した教育の充実
質の高い教育環境づくりの推進	⑯教育施設・設備の整備・教育環境の向上
	⑰学校安全の推進
	⑱教職員の資質能力の向上
	⑲学校運営の活性化
	⑳校種間連携・一貫教育の推進
	㉑県立高校将来構想に基づく特色ある学校づくり
	㉒私学の振興
	㉓修学支援の充実
	生涯にわたる市民総参加の教育の推進
㉕地域と学校が連携した子どもの育成	
㉖生涯学習の推進	
㉗地域社会における人権教育の推進	
㉘文化にふれあい親しむ環境づくりの推進	
㉙文化財の保護と活用	
㉚「輝く、夢あふれるスポーツ元気県やまぐち」の実現に向けた取組の推進	

重点化

10の緊急・重点プロジェクトの推進

- | | |
|------------------|-----------------------|
| ①グローバル人財育成プロジェクト | ⑥魅力ある学校づくりプロジェクト |
| ②ものづくり人財育成プロジェクト | ⑦安心・安全な学校づくりプロジェクト |
| ③確かな学力育成プロジェクト | ⑧教職員人財育成プロジェクト |
| ④豊かな心育成プロジェクト | ⑨地域ぐるみの教育推進プロジェクト |
| ⑤子ども元気創造プロジェクト | ⑩世界スカウトジャンボリー開催プロジェクト |

施策の柱1 知・徳・体の調和のとれた教育の推進

施策名	1 キャリア教育の推進
主な取組（25年度の取組状況）	
■系統的・計画的な取組の推進 [☆☆☆☆]	
<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育全体計画やキャリア教育実践事例集の作成、小学校における1/2成人式や中学校における立志式の実施による志を抱かせる教育の推進、新たな取組である1次産業インターンシップの実施を始めとする体験活動を行うなど、系統的・計画的な取組の充実が図られた。 	
<p>[「1/2成人式」や「立志式」を行っている公立学校の割合] H24:小63.2%,中14.6% → H25目標:増加させる 実績:小91.4%,中66.9%</p> <p>[体験的なキャリア教育を実施した公立学校の割合] H24:小100%,中100%,高90.7% → H25目標:増加させる 実績:小100%,中100%,高94.5%</p>	
■学校と家庭、地域、産業界等との連携強化 [☆☆☆☆]	
<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育推進会議や実践セミナーにより学校と家庭、地域産業界等との連携強化を図った。また、やまぐち教育応援団の登録事業所等を活用した学校は増加しており、本制度の定着が見られる。 	
<p>[学校へ支援を行った事業所の割合] H24:79.6% → H25:81.0%</p>	
評価 [順調]	
<p>県内全ての小・中・高等学校等においてキャリア教育全体計画が作成され、各学校段階において入学から卒業までを見通した系統的・計画的な取組を行った。</p>	
施策名	2 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育内容の充実
主な取組（25年度の取組状況）	
■言語活動を重視した教育の充実 [☆☆☆☆]	
<ul style="list-style-type: none"> 各種研修会の開催や拠点校の指定等を進めるとともに、学校訪問においても学習指導要領の内容に対応した指導助言を行ってきた結果、言語活動を重視した授業の実施率が高まってきている。 	
<p>[児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めている学校割合] H24小46.1% 中34.9% → H25小57.7% 中40.3%</p>	
■理数教育の充実 [☆☆☆☆]	
<ul style="list-style-type: none"> 県内7会場で理科授業づくりセミナーを開催し、体験的・探求的活動の充実を図った。また、生徒同士が高め合い成果を披露する場である「科学の甲子園山口県大会」等の参加者も増加傾向である。 	
<p>[小中高の3校種で合同研修を行う「授業づくり研修会」に参加した教員数] H24:195名 → H25目標:増加させる 実績:358名</p>	
■伝統や文化に関する教育の充実 [☆☆☆☆]	
<ul style="list-style-type: none"> 各教科の年間指導計画に地域や伝統、文化に関わる内容を位置づけて計画的な指導を行った。また、県巡回芸術劇場において伝統文化に関する公演を行うなど文化団体等の授業参加等を促進した。 	
<p>[山口県伝統・文化教材集の活用状況] H25 小100% 中100%</p>	
■道徳教育の充実 [☆☆☆☆]	
<ul style="list-style-type: none"> 小中高の教職員が一堂に会するセミナーの参加者が増加するとともに、学習指導要領に基づく道徳教育全体計画の作成や、県教委作成の指導資料等の活用により道徳教育の充実が図られた。 	
<p>[道徳教育指導力アップセミナーの参加者数] H24 640名 → H25 670名</p>	
■体験活動の充実 [☆☆☆☆]	
<ul style="list-style-type: none"> 推進校の指定や協議会の開催等を通して、学校が実施する発達の段階に応じた体験活動を推進した。 教員向けセミナー等により、職場体験活動やボランティア体験を実施する学校が増加してきている。 	
<p>[宿泊体験活動の実施率] H24:小86.3% 中74.4% → H25:小90.1% 中81.9%</p>	
■外国語教育の充実 [☆☆☆☆]	
<ul style="list-style-type: none"> 外国語活動、英語教育の充実に向けた研修会等を実施するとともに、新たにイングリッシュキャンプやディベート大会を開催することにより、英語学習に対するモチベーションの向上が図られた。 	
<p>[英検2級及び準2級を受験・合格した高校生の数] H24 受験2,555人・合格905人 → H25 受験2,644人・合格927人</p>	

施策の柱1 知・徳・体の調和のとれた教育の推進

■職業教育の充実 [☆☆☆]

・専門高校を対象に企業の設備等を活用しながら、課題解決学習や生徒の資格取得を支援した。今後も、産業構造の変化や複雑高度化する専門知識に対応できる人材育成に一層取り組む必要がある。

[専門的資格を取得した高校生数] H24 19.6% → H25 目標 22% 実績 20.1%

■教育の情報化の推進 [☆☆☆☆]

・「教育の情報化推進指針」に基づき、子どもや保護者を対象とした「情報モラル研修会」等を開催するなど、ネットワークを利用する上で必要なルールやマナー等の理解促進を図った。

[情報モラル研修会の実施校数] H19 (小8 中8 高12 特支0) → H25 (小105 中83 高32 特支2)

■時代に対応した教育内容の充実 [☆☆☆☆]

・説明会や学校訪問、研修等により、学校における環境教育の充実を図った。また、介護職員の育成研修や県消費生活センターによるセミナー等により福祉教育や消費者教育の充実を行った。

[エコリーダースクール認証校数] H24 67校 → H25 68校

評価 [順調]

学習指導要領の趣旨を踏まえた教育内容の充実のため、各校種、市町教育委員会及び各学校との連携を図りながら取組を行った。

施策名 3 学習指導の改善・充実

主な取組 (25年度の取組状況)

■学校の組織的な取組 [☆☆☆☆]

・全国学力・学習状況調査を活用した指導方法の工夫改善や板書型指導案利用の徹底、活用する力を高める授業づくりを行うとともに、教科の枠を超えた学校全体での協働的な取組が進んでいる。

■指導方法の工夫・改善 [☆☆☆☆]

・学力向上に向けた年2回の検証・改善サイクルや、やまぐち学習支援プログラムの活用促進により児童生徒の学力状況の把握に基づく課題が明確化し、授業改善を進める取組が充実してきている。

■学習環境の整備 [☆☆☆☆]

・教育力向上指導員、学力向上推進リーダー・推進教員等の活用により、きめ細かな指導体制の充実を図った。また、小中合同研修会、中高連携の相互乗り入れ授業等により指導の工夫改善を図った。

■学習習慣の確立 [☆☆☆]

・やまぐち学習支援プログラムの基本問題及び学期末評価問題の改訂を行うとともに、PTA研修会等での周知に努めた。今後もプログラムのさらなる内容充実や積極的な周知による活用促進等により、家庭学習の充実を図っていく必要がある。

[全国学力・学習状況調査平均正答率]

	H25 山口県 (全国)	目標	H26 山口県 (全国)
小国A	64.3% (62.7%)		→73.6% (72.9%)
小国B	50.2% (49.4%)		→57.8% (55.5%)
小算A	77.9% (77.2%)	小・中学校の全区分 で全国平均を上回る	→79.5% (78.1%)
小算B	59.9% (58.4%)		→58.6% (58.2%)
中国A	77.3% (76.4%)		→80.7% (79.4%)
中国B	68.3% (67.4%)		→52.4% (51.0%)
中数A	65.5% (63.7%)		→70.3% (67.4%)
中数B	44.2% (41.5%)		→62.6% (59.8%)

[勉強が「好き」「どちらかといえば好き」である児童生徒の割合] H25 : 小 62.2% 中 59.0% H26 : 小 62.5% 中 60.6%

評価 [順調]

学校と家庭や地域が連携して、児童生徒一人ひとりの学力に応じたきめ細かな学習指導を進めた。今後も現在の取組を充実させていくことで、児童生徒の学力向上を図っていく。

施策の柱1 知・徳・体の調和のとれた教育の推進

施策名	4 国際教育の推進
<p>主な取組（25年度の取組状況）</p> <p>■国際交流を通じた国際教育の推進 [☆☆☆☆]</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外留学経費の一部助成による高校生の留学支援(7名)や、国際的に活躍している人材を学校に派遣して実施するグローバルセミナー、韓国慶尚南道への高校生の派遣(12名)などにより国際教育を進めた。 <p>[グローバルセミナーの実施校] H24:中0校 高7校 H25:中23校 高8校</p> <p>■国際交流を担う人材の基盤となる資質能力の育成 [☆☆☆☆]</p> <ul style="list-style-type: none"> イングリッシュキャンプや英語ディベート大会等の実施による実践的な体験により、児童生徒の語学力(英語力)とコミュニケーション能力の向上が図られた。 <p>[山口県高校生英語ディベート大会の参加チーム数] H25 目標:5チーム 実績:6チーム</p> <p>■日本ジャンボリー・世界ジャンボリー [☆☆☆☆]</p> <ul style="list-style-type: none"> 第23回世界スカウトジャンボリーのプレ大会である第16回日本ジャンボリーにおける、地域プログラムの受け入れ、参加国事典を活用した事前事後学習、「やまぐち魅力発信広場」への生涯学習団体の出演等により、ジャンボリーを活用した国際理解の推進が図られた。 <p>[ジャンボリーを活用した国際教育の取組を実施した学校の割合] H25:90.7%</p> <p>評価 [順調]</p> <p>国際教育の推進や国際交流を担う人材の育成に向けた取組を進めた。今後も、目標や課題にチャレンジし、グローバルな視点やリーダーシップをもって行動できる人材の育成に一層取り組んでいく。また、世界スカウトジャンボリー開催に向け、関係機関との連携強化等をさらに進めていく。</p>	
施策名	5 読書活動の充実
<p>主な取組（25年度の取組状況）</p> <p>■学校における読書活動の推進 [☆☆☆]</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中学校での全校一斉の読書活動が広がり、授業における学校図書館の利活用や小学生の読書習慣の定着を図るために作成した『食事、運動・遊び、読書』90日元気手帳の活用も進んだ。今後は、学校図書館担当教職員の研修の充実や学校図書館資料の計画的整備に一層取り組む必要がある。 <p>[読書が好きと感じている児童生徒の割合] H25.4小72.3%、中73.2% → H26.4目標:増加させる 小73.5%、中73.1%</p> <p>■家庭や地域における子どもの読書活動の充実 [☆☆☆☆]</p> <ul style="list-style-type: none"> 18市町で「子ども読書活動推進計画」が策定され、取組を推進する体制の整備が進んだ。 「こどもの読書週間」に合わせたイベントの実施や「家庭の元気応援キャンペーン」を活用した広報のほか、特徴ある取組を行っている民間読書ボランティア団体を表彰する等の取組を行った。 <p>[学校以外で月に1冊も本を読まない児童生徒の割合] H24小23.8%、中10.1% → H25目標:減少させる 実績:小22.5%、中10.6%</p> <p>■山口県子ども読書支援センターによる支援の充実 [☆☆☆☆]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「出前こどもとしょかん」の実施や、公立図書館職員、学校関係者、民間読書ボランティア団体に向けた研修会の開催、相互貸借など公立図書館のネットワーク化の推進を図ることにより、子どもの読書環境の整備が図られた。 <p>[公立図書館職員、学校関係者等への研修会や講座等] H24:399名 → H25:469名</p> <p>評価 [一部に課題はあるが概ね順調]</p> <p>家庭や地域、学校がそれぞれの役割を果たし、民間団体とも連携しながら読書活動を推進したが、学校図書館の資料整備等に課題があるため、今後も平成25年度に策定した「山口県子ども読書活動推進計画第3次計画」に基づき、一層の取組を進めていく。</p>	

施策の柱1 知・徳・体の調和のとれた教育の推進

施策名 6 学校における人権教育の推進

主な取組（25年度の取組状況）

■人権尊重の意識を高め、一人ひとりを大切にする教育の推進 [☆☆☆☆]

・「山口県人権推進指針」及び「山口県人権教育推進資料」に基づいた人権教育を推進するため、授業等で具体的に活用できる資料を作成・配付するとともに、各学校を訪問して行う研修会等で活用することにより、学校において取組の充実が図られた。

[人権教育に関するサテライト研修等への講師派遣の回数] H24:27回 →H25 目標:30回 実績:32回

■教職員研修の充実 [☆☆☆☆]

・管理職や担当教員を対象とした人権教育研修会において、校内研修で実施可能な研修方法の紹介を行うなどの取組を行った結果、講義型の研修の他、様々な形態による研修会が行われるなど、教職員の資質の向上が図られた。

■人権に関する資料の整備と活用の促進 [☆☆☆☆]

・人権教育を効果的に進めるために必要な視聴覚資料を選定し、県立山口図書館に整備した。また、利用希望の多いビデオ「ほんとの空」を活用した指導展開例を作成して研修会でビデオフォーラムを開催するなどの取組により、県内の学校で視聴覚資料が活用された。

[県内学校での視聴覚資料の活用状況] 小学校99回、中学校29回、高等学校85回、特別支援学校15回

評価 [順調]

人権に関する課題や研修手法等の具体的資料の提供、管理職や中核となる教職員に対する研修内容の工夫などにより、学校における人権教育を推進した。

施策名 7 体力向上の推進

主な取組（25年度の取組状況）

■「子ども元気調査」等を踏まえた組織的な取組の推進 [☆☆☆☆]

・調査の結果を基に「子ども元気創造推進会議」等により、子どもの望ましい運動習慣の形成・定着に向けた取組の方向性を検討し「学校体育通信」「体力向上の手引き」等を通じて取組を推進した。

[「学校体育通信」の作成・配布] H24:2回 →H25:5回

■学校における体育・スポーツ活動の充実 [☆☆☆]

・学校の「体力向上プログラム」等による活動の支援に向け、研修、地域スポーツ人材による授業支援等の充実を図った。今後も取組を改善しながら課題に応じた取組を一層推進していく必要がある。

[全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の県平均点]

H24:小5男53.6点 → H25 目標:53.8点 実績:53.4点 小5女54.4点 → H25 目標:54.6点 実績:54.6点

H24:中2男41.5点 → H25 目標:41.7点 実績:41.0点 中2女48.5点 → H25 目標:48.7点 実績:48.6点

■家庭や地域と一体となった取組の推進 [☆☆☆]

・地域との連携を推進するため、大学や総合型地域スポーツクラブ等とコンソーシアムを構成し、文部科学省事業を活用することで、学校に対する地域のスポーツ人材の協力を進めることができた。

[体育の授業以外に運動や外遊びをほとんど毎日（週3日以上）行っている児童生徒の割合]

H24:小5男64.1% → H25 目標:65.0% 実績:65.4% 小5女38.7% → H25 目標:39.9% 実績:38.1%

H24:中2男89.9% → H25 目標:90.3% 実績:88.9% 中2女65.1% → H25 目標:65.4% 実績:64.3%

評価 [一部に課題はあるが概ね順調]

各学校で体力向上への取組の充実が図られているが、一部の種目で全国平均を下回っていることや運動習慣の定着に課題もあることから、今後も、市町教委、学校、家庭、地域等と連携した取組を一層推進するとともに、運動習慣の二極化が進行する、中・高校生に対する運動機会の提供を進めていく。

施策の柱1 知・徳・体の調和のとれた教育の推進

施策名	8 食育の推進
主な取組（25年度の取組状況）	
■学校での組織的・計画的な食育の推進及び家庭や地域との連携促進 [☆☆☆☆]	
<ul style="list-style-type: none"> 各学校における「食に関する指導の全体計画」等の策定及び内容の改善見直しについて指導するとともに、『食事、運動・遊び、読書』90日元気手帳』の作成・配付により、学校や家庭での日々の振り返りを通して、食習慣について子どもが主体的に見直すよう促した。 	
<p>[朝食を毎日摂っている児童生徒の割合] H24:小 90.1% 中 87.8% → H25 目標:増加させる 実績: 小 92.5% 中 89.6%</p>	
■学校給食の充実 [☆☆☆☆]	
<ul style="list-style-type: none"> 安全・安心な給食の提供に関する意識を高めるため、指導者講習会や担当者の研修会を実施した。また、地場産食材の活用や郷土食を取り入れた献立等、工夫した給食の充実を図るため、市町教育委員会と連携して、教科等とも関連付けた献立作成等を促進した。 	
<p>[地場産食材使用状況調査] H17:26.9% → H25:目標 50%以上 実績 57.5%</p>	
■栄養教諭・学校栄養職員のさらなる研修の充実 [☆☆☆☆]	
<ul style="list-style-type: none"> 市町教育委員会や給食関係団体との連携により講習会等を開催し、衛生管理や栄養管理等、給食管理の基本を徹底するとともに、給食を教材とした食に関する指導の充実のため、栄養教諭配置校への訪問や食に関する指導研修会を実施した結果、給食関係職員の意識の高まりが見られた。 	
<p>[県の作成する実践事例集へ掲載事例数] H24:市町 18 件、県立 0 件 → H25:市町 17 件、県立 7 件</p>	
評価 [順調]	
<p>栄養教諭や学校栄養職員を対象とした研修等をとおして、「食に関する指導の全体計画」等に基づき、教科等の指導内容にも関連した取組を計画的・組織的に進めることができた。今後も、食育の取組や、地場産食材等を使用した献立の工夫、家庭と連携した食習慣の向上の取組等の普及のための講習や研修を実施していく。</p>	
施策名	9 健康教育の推進
主な取組（25年度の取組状況）	
■学校保健(健康管理・保健教育)の組織的・計画的な取組の促進 [☆☆☆☆]	
<ul style="list-style-type: none"> 研修会や会議の場を通して、養護教諭を中心とした学校保健活動の充実に向けた指導助言、教職員の保健教育への意識の向上に係る研修、保護者や医療関係者等との連携を促す情報提供等を行った。 学校保健状況調査を通して課題を把握することで、学校への指導助言の内容の改善見直しを行った。 	
<p>[朝食を毎日摂り、排便が毎日ある児童生徒の割合]</p>	
<p>H24:小男 72.8% → H25 小男目標:増加させる 実績:71.7% H24 小女 67.4% → H25 小女目標:増加させる 実績:68.1%</p>	
<p>H24:中男 76.9% → H25 中男目標:増加させる 実績 78.5% H24:中女 58.4% → H25 中女目標:増加させる 実績:60.6%</p>	
■現代的な健康課題の解決に向けた取組の充実 [☆☆☆☆]	
<ul style="list-style-type: none"> 養護教諭の研修や学校における研修を通して、メンタルヘルス対策など、喫緊の課題について重点的な指導を行うことによって、組織的な対応に向けた教職員の意識を高めることができた。 医療関係者等と連携した取組を通して、専門性を求められる課題について理解を深める研修等を行うことで、養護教諭の専門性を高めた。 	
<p>[学校での健康観察実施状況] H25:小 100% 中 100% 高 95.2%</p>	
評価 [順調]	
<p>養護教諭の研修会等を通して学校保健に関する指導や助言を行ったことで、学校において健康管理や保健教育が計画的・組織的に取り組まれるようになった。今後も新たな健康課題に対応できるよう、医療関係者との連携のもと専門的知識を深める研修を計画的に実施していく。</p>	

施策の柱1 知・徳・体の調和のとれた教育の推進

施 策 名	10 特別支援教育の推進
-------	--------------

主な取組（25年度の取組状況）

■ **エリア型指導・支援体制の導入による指導・支援の充実** [☆☆☆☆]

・特別支援学校の専門性の一層の向上に向け、平成26年度から県内3地域において、視覚障害教育センター及び聴覚障害教育センターを設置するため、新たに配置する地域コーディネーターの専門性のOJTとともに関係機関連携協議会を立ち上げ、地域の専門家等とのネットワークを構築した。

[関係機関連携協議会（H25立ち上げ）の開催] 視覚障害教育1回、聴覚障害教育1回

■ **多様な障害に応じる総合支援学校における指導体制の充実** [☆☆☆☆]

・全児童生徒の個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成して一人ひとりに応じた指導を実施した。また、ICTを活用した指導方法等の研究や現場実習先からのフィードバックを活用した作業学習の見直し等、日々の授業実践の充実が図られた。

[総合支援学校高等部の就職希望生徒の就職率] H24：98.4% H25目標：向上させる 実績：95.9%

■ **幼・小・中・高等学校等における相談支援の実効性の向上** [☆☆☆☆]

・校内コーディネーターの指名や校内委員会の設置等、各学校における基盤整備は整っている。特別な支援が必要な児童生徒への指導・支援をさらに充実させるため、個別の教育支援計画や個別の指導計画の活用等により校種間の支援の引き継ぎを推進した。

[発達障害等のある幼児児童生徒が在籍している公立学校の個別の指導計画の作成率] H24：96% H25目標：97% 実績：97.1%

[発達障害等のある幼児児童生徒が在籍している公立学校の個別の教育支援計画の作成率] H24：95.7% → H25：96.9%

■ **ふれあい教育センターを中核とした相談支援体制の充実** [☆☆☆☆]

・ふれあい教育センターや各支援地域の特別支援教育センター等による多様な相談への支援の他、構内での事例検討会等により、各学校が主体的に課題を解決できるような取組を進めた。

[ふれあい教育センターでの相談件数] H24:5,719件 → H25:5,823件

■ **家庭や地域と学校との連携強化** [☆☆☆☆]

・臨床心理士等による保護者を対象とした研修会や地域フォーラム、ボランティア養成講座等により家庭や地域への理解啓発を進めた。

[臨床心理士等を活用した市町・学校での研修会や講演会] H23:45件 → H24:118件 → H25:112件

評 価 [順調]

各取組を順調に進めることができた。今後も引き続き「山口県特別支援教育ビジョン」及び第2期実行計画に基づき、事例検討による指導支援の評価・見直しを行うなど、各学校の相談支援の実効性の向上をめざす取組を進めていく。

施 策 名	11 幼児期における取組の充実
-------	-----------------

主な取組（25年度の取組状況）

■ **幼児期の教育の質の向上** [☆☆☆☆]

・幼稚園教育課程研究協議会や各種研修会の開催、園の課題を個別に支援する幼稚園訪問を行うことにより、各幼稚園において食育や読み聞かせ等の取組に様々な工夫が見られるようになった。

[幼稚園関係研修講座参加者延べ] H24:629人 → H25:549人

■ **「つながる子どもの育ち大会」を活用した幼児期の教育の理解促進** [☆☆☆☆]

・幼稚園や保育所、小学校の教員・保育士等の幅広い参加により実践的な研究を行う「つながる子どもの育ち大会」を新たに開催し、互いの指導のあり方や連携の手立てについて、理解が深められた。

[つながる子どもの育ち大会の参加者数] 234人（うち保育園関係者64人）

■幼児期の教育と小学校教育の連携の促進 [☆☆☆]

・小学校区内での合同保育や授業、小学校教員の幼稚園への長期派遣研修により、幼保・小連携の体制づくりが進んでいるが、各地域において中核となる人材の育成を一層進めていく必要がある。

[幼稚園・保育所等と連携した取組を実施している公立小学校の割合] H24:77.2%→H25:100%

■接続期のカリキュラムの充実 [☆☆☆]

・新たに小学校入学時のスタートカリキュラムについてのリーフレットを作成し、全小学校、幼稚園保育所に配布した。今後はこのリーフレット活用によるスタートカリキュラムの充実が必要となる。

[接続を見通した教育課程を編成・実施している市町] H24:21% (隔年調査)

■子育て支援の推進と「地域協育ネット」の活用 [☆☆☆]

・保護者向けリーフレット「夢をはぐくむ家庭の元気(幼児期版)」の活用等により、園庭・園舎の開放や子育て相談の実施など、幼稚園等における子育て支援の取組を推進した。今後、「地域協育ネット」を活用した幼稚園等における子育て支援に一層取り組む必要がある。

[子育て支援を実施している幼稚園の割合] H24:78% (隔年調査)

評 価 [一部に課題はあるが概ね順調]

教員や保育士を対象とした研修会や幼稚園への訪問指導等により、指導の在り方や連携の手だてについて理解促進は進んだが、地域や学校・園により取組の進捗に差が見られることが課題である。今後、市町教委と連携を強化し、人材育成や幼保小接続に関する研究成果の普及等に重点的に取り組む。

施 策 名 | 1 2 少人数教育の推進

主な取組(25年度の取組状況)

■小・中学校における効果的な少人数学級化の実施 [☆☆☆☆]

・児童生徒の状況に応じたきめ細かな指導体制を充実し、学力向上や生徒指導上の諸課題に対応するために、小中学校全体で35人学級化を維持継続した。また、小1プロブレムに対する効果等について、30人学級化に関する研究指定校10校を指定し、実践研究を行った。

■少人数指導(複数教員による指導・学習集団の編成)の充実 [☆☆☆☆]

・計画的な訪問や「少人数指導ガイドライン」の活用を通して、効果的な指導方法や指導形態の工夫について改善が図られた。

■学力向上推進リーダー・推進教員による支援の充実 [☆☆☆☆]

・各地域に配置している学力向上推進リーダー・推進教員の拡充(H24:31人→H25:50人)や全国学力・学習状況調査や県学力定着状況確認問題等の結果を活用した、各学校の指導等により児童生徒の学力向上が図られた。

[全国学力・学習状況調査平均正答率]

	H25 山口県 (全国)	目標	H26 山口県 (全国)
小国A	64.3% (62.7%)		→73.6% (72.9%)
小国B	50.2% (49.4%)		→57.8% (55.5%)
小算A	77.9% (77.2%)		→79.5% (78.1%)
小算B	59.9% (58.4%)	小・中学校の全区分 で全国平均を上回る	→58.6% (58.2%)
中国A	77.3% (76.4%)		→80.7% (79.4%)
中国B	68.3% (67.4%)		→52.4% (51.0%)
中数A	65.5% (63.7%)		→70.3% (67.4%)
中数B	44.2% (41.5%)		→62.6% (59.8%)

[勉強が「好き」「どちらかといえば好き」である児童生徒の割合] H25:小62.2%中59.0% H26:小62.5%中60.6%

評 価 [順調]

全国学力・学習状況調査等を活用した指導方法の工夫改善、研修会の開催や情報発信等による効果的な指導方法の提供、授業研究や授業評価による授業改善等の実施により、指導方法の工夫改善が進んだ。

施策の柱1 知・徳・体の調和のとれた教育の推進

施 策 名	13 生徒指導・相談体制の充実
-------	-----------------

主な取組（25年度の取組状況）

■心の教育の取組の基盤となる開発的生徒指導の充実 [☆☆☆]

・開発的・予防的生徒指導の取組について、各種会議や研修会等での普及啓発を行い、推進指標も改善されているが、ネット・ケータイ問題への対応をさらに充実させていく必要がある。

[いじめはどんな理由があってもいけないことだ]と知っている児童生徒の割合] H25:小81.1%中77.4% → H26目標:増加させる 実績:小84.4%中78.7%

■問題行動や不登校の早期発見・早期対応等に向けた組織的な取組の充実 [☆☆☆]

・エリアSV、市町配置のSSW、FRアドバイザー等、専門家の派遣体制が進んだ。問題行動や不登校への対応には、家庭との連携が不可欠であることから、学校だけでは解決困難な事例に対応するSSWの市町への配置を一層推進していく。

[1000人当たりの不登校児童生徒数] H23:小中9.7人 高5.1人 → H24目標:減少させる 実績:小中9.5人 高5.1人

[1000人当たりの暴力行為の発生件数] H23:4.2件 → H24目標:減少させる 実績:4.7件

■学校・家庭・地域が連携した体制づくり [☆☆☆☆]

・SCの全中学校配置や小中連携による継続性のある生徒指導の推進、生徒指導等連絡協議会の開催などにより、学校・家庭・地域が連携した生徒指導・相談体制づくりが進んだ。
・いじめの防止・根絶に向けた取組を実効的に進めていくため、「山口県いじめ防止基本方針」を策定し、社会総がかりでいじめの防止等のための取組を推進することとした。

[いじめの解消率] H23:88.4% → H24:94.0%

■やまぐち総合教育支援センター等の相談・支援体制の充実 [☆☆☆]

・教育に係る総合的な相談窓口や臨床心理士等専門スタッフによるきめ細かな対応など、相談機能の充実・強化を図るとともに、保護者、学校はもとより医療・福祉等地域の関係機関との連携を進め、多様化する相談への適切な対応に努めた。相談の中には困難な事例が増えてきており、学校はもとより教育委員会や関係機関との連携をより一層図っていく必要がある。

[学校サポートチームの派遣回数] H24:75回 → H25:138回

■緊急時等の学校への支援体制の充実 [☆☆☆]

・警察や臨床心理士等の専門家との連携が進み、児童生徒の二次被害の防止や学校への支援に成果を上げたが、ネット・ケータイ問題において、警察等関係機関との連携を図りながら、LINE等最新のSNSに早急に対応していく必要がある。

[学校メンタルサポート派遣件数] H24:14件 → H25:25件

評 価 [一部に課題はあるが概ね順調]

やまぐち総合教育支援センターへの相談は困難な事例が増えてきており、今後も、学校はもとより教育委員会や関係機関との連携をより一層図っていく。また、SC、SSWの配置の充実にも努めていく。

施 策 名	14 進路指導の充実
-------	------------

主な取組（25年度の取組状況）

■組織的、計画的・系統的な進路指導の推進 [☆☆☆☆]

・各学校において、進路指導計画の工夫・改善を図りながら、各学校の特色や生徒の実態に応じた進路指導が推進された。その際、キャリア教育の視点に立ち、生徒一人ひとりの適性や、進路希望、学習状況等にも応じながら、個に応じた指導の充実が図られた。

[中学校・高校卒業者のうち進路決定者の割合] H24:中98.9%、高97.8% → H25目標:増加させる 実績:中98.9%、高校97.7%

■進学支援の充実 [☆☆☆☆]

- ・中学校等においては、「夢サポート」の活用や「進路説明会」、「卒業生に学ぶ会」等の開催など、生徒の進学意欲の向上に向けた取組が充実してきた。
- ・高等学校等においては、県教委主催の「進学セミナー」や「学習キャンプ」の開催等により、生徒の進学意欲の向上及び教員の指導力の向上が図られた。

■就職支援の充実 [☆☆☆☆]

- ・組織的な支援体制の下、「ガイダンスの充実」、「求人開拓の強化」、「マッチングの促進」に向けた取組を推進することができ、就職決定率の向上につながった。
- ・特別支援学校においては、生徒の就職状況や企業ニーズを踏まえ、職業教育の充実を図るとともに、新たな職業学科の設置に向けた取組を推進した。

[高校生の就職決定率] H24 : 97.7% → H25 目標:向上させる 実績:99.0%

評 価 [順調]

組織的な進路指導体制の強化や、生徒一人ひとりの希望に応じた計画的・系統的かつきめ細かな進路指導の推進により取組は順調に進んでいる。また、生徒の進路意識の醸成、学習習慣の定着、学力の伸長に資する取組等を支援し、生徒一人ひとりの進路実現を図っている。

施 策 名 15 社会教育施設等を活用した教育の充実

主な取組（25年度の取組状況）

■学校と青少年教育施設・地域が連携した体験活動の充実 [☆☆☆]

- ・「心の冒険・サマースクール」や野外活動指導者研修では、大雨災害により一部開催できなかったプログラムもあったが、AFPYでは県内各地で開催した指導者研修会に200人を越える参加者があるなど、本県の特徴ある取組が積極的に推進されている。

[AFPYアドバイザーの登録者数] H24:0人 → H25:目標 20人 実績 21人

■図書館におけるサービスの充実 [☆☆☆☆]

- ・ふるさと文学関係や館所蔵資料を生かした展示や講座の参加者数が増加するなど文化に親しむ機会提供の効果が認められた。
- ・他の公立図書館等との相互貸借など図書館のネットワーク化を進め、サービスの向上が図られた。

[図書館での展示、講座回数(参加者)] H24 : 117 展示、58 講座 (1,117 人) → H25 : 127 展示、68 講座 (1,746 人)

■博物館、文書館等における教育の充実 [☆☆☆☆]

- ・博物館の出前授業や文書館の各種講座、埋蔵文化財センターの速報展など、各施設の館所蔵資料や専門性を生かした取組を実施した。
- ・博物館においては出前授業の利用が増加し、指標の目標を上回った。

[博物館の出前授業、館内授業の年間利用者数] H24:18,384人→H25:目標 20,000人 実績 23,195人

評 価 [一部に課題はあるが概ね順調]

各施設で、特色ある講座や展示等、専門性を生かし、充実した取組を実施したことで、参加者や利用者が増加した。体験活動においても参加者数は増加しているが、指導者として活動できる人材が少ない現状があることから、今後は、さらに指導者の養成や体験活動の促進に一層取り組んでいく。

施策名	16 教育施設・設備の整備、教育環境の向上
<p>主な取組（25年度の取組状況）</p> <p>■県立学校の整備 [☆☆☆]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標である平成27年度末までの耐震化完了に向けて、耐震補強等を集中的に実施しており、耐震化率は順調に向上している。屋内運動場の天井等落下防止対策は、年度途中で国の対策基準等が示されたため、設計業務の発注時期が遅延し、計画どおりの進捗とはならなかった。 <p>[県立学校の耐震化率] H25.4:93.6% → H26.4:95.1%</p> <p>■市町立幼・小・中学校の耐震化の促進 [☆☆]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標である平成27年度末までの耐震化完了に向けて、各市町において重点的・集中的に耐震化に取り組んだが、現時点で7市が達成困難な状況となっている。 <p>[市町立小・中学校の耐震化率] H25.4:74.8% → H26.4:80.8%</p> <p>[市町立幼稚園の耐震化率] H25.4:47.3% → H26.4:52.7%</p> <p>■学校施設の防災機能の強化・充実 [☆☆☆☆]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校施設のバリアフリー化など、災害時の避難所としての防災機能強化等を進めた。また、全県立学校に衛星携帯電話を整備するとともに、各市町に対しては、会議等を通じて整備促進を要請した。 <p>[県立学校の衛星携帯電話の整備] H25:全県立学校（中四国では唯一）</p> <p>■県立社会教育施設の整備 [☆☆☆]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の耐震化やバリアフリー化に向け、山口博物館については耐震改修等調査、埋蔵文化財センターについては補強計画・実施設計を行った。 <p>評価 [一部に課題はあるが概ね順調]</p> <p>県立学校施設は、目標達成等に向けて順調に取組が進んでいるが、市町立小・中学校等は耐震化完了の目標達成が困難な状況にあり、市町に対し引き続き強力で働きかけていく。また、学校の衛星携帯電話についても引き続き市町に対して整備を要請していく。県立社会教育施設については、今後も耐震化やバリアフリー対策、収蔵場所の確保に向けて取り組んでいく。</p>	
施策名	17 学校安全の推進
<p>主な取組（25年度の取組状況）</p> <p>■「山口県学校安全推進計画(仮称)」の策定 [☆]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画の策定に向けてワーキンググループを組織し、項立て案の検討や1次案の検討・修正を行った。当初、25年度中に策定する予定であったが、学校安全の効果的な推進には総合的な取組が必要であることから、関係機関等から幅広い意見を求めたところであり、予定どおりの策定とはならなかった。 <p>[「学校安全の推進に関する計画」に準じた計画の策定済都道府県数] 5府県</p> <p>■教職員の安全意識の向上と危機対応力の強化 [☆☆☆☆]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種研修会など様々な機会を通して、教職員の安全意識の向上・危機対応力の強化に努めた。各学校での危機管理に係る校内研修の実施率は高く、取組の定着が見られる。 ・防犯教育研修会、防災教育研修会は学校安全の知識・理解・技能を高める上で有効であった。 <p>[学校危機対応演習資料使用率] H24:71.4% → H25:78.2%</p> <p>■保護者・地域・関係機関と連携した学校安全の取組強化 [☆☆☆☆]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全活動への取組が進んでおり、スクールガードの活動者数（6万4千人）も増え、地域ぐるみによる防犯体制の充実が図られた。携帯メールによる情報発信システムは概ね順調に整備された。 <p>[携帯メールによる情報配信システムを整備している公立学校の割合] H24:81.2% → H25 目標:増加させる 実績:89.7%</p>	

■安全意識・能力を育む「防犯を含む生活安全」の推進 [☆☆☆☆]

- ・各学校が積極的に危険予測学習に取り組むなど、児童生徒の危険予測・回避能力の育成に向けた取組が進んだ。
- ・防犯教室・防犯訓練の実施や児童生徒の安全マップ作成への参加など、各学校の主体的な安全活動への取組が進捗するとともに、地域ぐるみによる防犯体制の充実が図られた。

[学校等における防犯教室・防犯訓練の実施率] H24:89.6% → H25:91.4%

■自他の命を守る「交通安全」の推進 [☆☆☆☆]

- ・各学校での危険予測学習の実施、通学路の点検等の安全対策の推進、サイクル・スクールリーダー活動の推進等の取組により、通学路における事故等は減少傾向にあるなど一定の成果が見られた。

[児童生徒の登下校における交通事故件数] H24:小15件、中28件、高75件 → H25 目標:減少させる 実績:小11件、中14件、高73

■防災対応能力の向上を図る「災害安全(防災)」の推進 [☆☆☆☆]

- ・各学校での危険予測学習や防災テキスト等を活用した防災教育、様々な災害に対応した避難訓練等を実施した。大学等の専門家と連携した防災出前授業への参加が増えるなど、学校の防災意識が一層高まり、学校防災の取組が着実に進んだ。

[火災以外の防災訓練の実施率] H24:97.1% → H25:97.6%

評価 [一部に課題はあるが概ね順調]

今後も、教職員の安全意識の向上と危機対応力の強化を図るとともに、保護者・地域・関係機関と連携した学校安全3領域(防犯を含む生活安全、交通安全、災害安全)の取組を一層推進していく。また、「山口県学校安全推進計画」の早期策定に努める。

施策名 | 18 教職員の資質能力の向上

主な取組(25年度の取組状況)

■優れた人材の確保 [☆☆☆☆]

- ・「教育実習の充実に向けた研修会」を新たに開催するとともに、優れた人材の確保のため「学校体験制度」や「教育実習指定校制度」を拡充した。また、教員志願者を養成する「高校生のための教職セミナー」や新規採用予定者に対して「採用前教職インターンシップ」を新たに実施した。

[学校体験制度実施校] H24:24校69人 → H25:31校86人

■教職員評価の充実 [☆☆☆☆]

- ・新任教頭向け評価者研修の新設等の取組により、教職員評価制度は着実に定着した。今後はさらに、評価者のニーズに応じた研修を工夫するなど、評価の公平性、信頼性、納得性を一層高めるとともに、国の動向を注視しながら、評価結果の処遇への反映等に向けた取組を進めていく。

[苦情相談件数] H23:1件 → H24:0件 → H25:0件

■教職員研修の充実 [☆☆☆☆]

- ・リーダー養成研修や新任主任研修、職務別研修等では、受講者アンケートでニーズを十分に把握しながら、教育活動の推進に向けて中核となる人材を育成する研修を充実させることができた。

[やまぐち総合教育支援センター研修(サテライト研修等を含む)の受講者数] H24:12,701人→H25:14,279人

■学校内の人材育成 [☆☆☆☆]

- ・効果的な校内研修の実施を支援する手立てとなる、サテライト研修の講座数及び受講者数が増加しており、校内研修の活性化につながっている。新規の課題解決型サテライト研修では、ミドルリーダーへの支援を通して、継続的に学校の課題解決に向けた支援ができていく。

[サテライト研修受講人数] H24:5,558人 → H25:7,872人

■意欲や能力、実績に応じた的確な人材活用 [☆☆☆☆]

- ・退職者の増加等で大規模な異動が続く中、公募型人事異動の積極的な活用や、教育力向上指導員制度を活用した授業公開の拡大などに取り組んだ。今後も、意欲や能力、実績に応じた的確な人材活用に一層取り組んでいく。

[教育力向上指導員による授業等公開校内参加人数] H24 : 1,185 人 → H25 : 1,494 人

■教職員のメンタルヘルスの維持 [☆☆☆☆]

- ・県全体で実施する管理職研修に加え、各地域協議会においても独自に研修会が実施され、ほぼ計画通りに管理職の知識の向上や意識啓発を行うことができた。

[メンタルヘルス講習会の参加人数] H24 : 386 人 → H25 : 390 人

評 価 [順調]

大量退職・大量採用が進む中、今後も「教職員人材育成基本方針」に基づき、大学等と連携した養成段階の充実、教員採用選考試験の改善による優れた人材の確保、教職員研修の充実や意欲や能力、実績に応じた的確な人材活用を一層進めることで、教職員の資質能力の向上を図る。

施 策 名

19 学校運営の活性化

主な取組（25年度の取組状況）

■目標管理型の学校評価の充実 [☆☆☆☆]

- ・全公立学校において目標管理型の学校評価が実施されており、学校運営状況の可視化による学校、保護者、地域間での課題の共有と課題解決に向けた取組が、学校運営の活性化につながった。

[保護者や地域住民等を評価者とした学校関係者評価を実施している公立学校の割合] H24 : 95.5% → H25 目標 : 向上させる 実績 : 100%

■ミドルリーダーの育成と教職員の学校運営への参画意識の向上 [☆☆☆]

- ・ミドルリーダー育成研修の満足度は向上しており、研修内容の改善の成果が表れたが、大量退職を迎える中、今後も他の世代と比べ層の薄いミドルリーダー層の育成に一層取り組む必要がある。

[リーダー養成研修 (OJT) のアンケートで「役立つ」と回答した受講者の割合] H24 : 81% → H25 : 90%

■マネジメント能力を有する管理職の育成 [☆☆☆]

- ・より優秀な人材の登用に向け、ベテランや女性等、新たな人材の掘り起こし、人物・実績重視の選考の改善等に取り組み、管理職選考の受験者が増加した。一方で、登用後の研修や管理職を養成するための中堅層の研修については、一層改善に取り組む必要がある。

[管理職選考試験の受験者数] H24 : 558 人 → H25 : 606 人

■学校運営の改善に向けた取組の推進 [☆☆☆☆]

- ・学校評価等の評価活動の活用、OJT の推進、学校事務職員の参画、家庭や地域社会との連携等を通して学校組織の活性化を図る取組が進み、組織的な学校運営による学校運営の改善が進んでいる。
- ・保護者や地域住民が積極的に学校経営に参画するコミュニティ・スクールの設置率は全国一位となっており、本県教育の大きな特長となっている。

[コミュニティ・スクール (学校運営協議会設置校) 指定校の割合] H25:67.3% → H26.4:80.1%

評 価 [一部に課題はあるが概ね順調]

各学校での自己評価や学校関係者評価は順調に取り組まれている。今後は、他の世代と比べ層の薄いミドルリーダーの育成や管理職のマネジメント能力の向上に一層努めていく。また、コミュニティ・スクールの普及により、学校組織の活性化を図り、学校の組織力の強化を図っていく。

施策の柱2 質の高い教育環境づくりの推進

施策名	20 校種間連携・一貫教育の推進
<p>主な取組（25年度の取組状況）</p> <p>■ 子どもの育ちをつなぐ教育活動の連携促進 [☆☆☆☆]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校区を単位とした幼児と児童の交流活動や、中学校区を単位とした教育課程の情報共有等を通じた小・中の教育活動の連携や小・小連携など、幼保小、小中、中高の各校種間で様々な取組が推進され、幼児児童生徒の育ちや学びの連続性を意識した教育の充実が図られた。 <p>[幼稚園・保育所等と連携した取組を実施している公立小学校の割合] H24：77.2% → H25：100%</p> <p>■ 継続的な指導の充実を図る教職員の連携促進 [☆☆☆☆]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校教員の幼稚園への派遣や小中連携による相互乗り入れ授業、中高連携による授業づくり研修会を実施するなど、幼保小、小中、中高の各校種間で様々な取組を推進し、幼児児童生徒の育ちや学びの連続性を意識した継続的な指導の充実が図られた。 <p>[異校種間の授業参観や情報交換会を実施した公立学校の割合] H24：100% → H25：100%</p> <p>■ 中高一貫教育のさらなる推進 [☆☆☆☆]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携型での中高合同の研修会や行事によるお互いの教育活動の理解や、併設型での高校の内容の先行学習による学力の育成など、各学校・地域ごとのコンセプトに基づいた一貫教育を展開している。 <p>評価 [順調]</p> <p>定期的な校種間連携や研修交流の機会の確保により、各校種間での連携を深め、育ちや学びの連続性を意識した教育を推進した。</p>	
施策名	21 県立高校将来構想に基づく特色ある学校づくり
<p>主な取組（25年度の取組状況）</p> <p>■ 「めざす学校像」「育てたい生徒像」を明確にした特色づくり [☆☆☆☆]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校において、学校や生徒の実情等を踏まえた特色ある取組を着実に推進するとともに、各校の取組について、新たに全ての学校の具体的な取組をHPで公表するなど積極的な情報発信に努めた。 <p>[各高校で開催される体験入学や学校説明会に参加した中学生の延べ人数] H24:17,645 → H25:17,820人</p> <p>■ 現行の「再編整備計画（平成24年度～26年度計画）」の着実な推進 [☆☆☆☆]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行の再編整備計画に基づき、下関中央工業高校と下関工業高校の再編統合及び通学区域の改善について、実施年度等の具体を公表し、その周知に努めた。 <p>■ 「県立高校将来構想」の検証と見直し [☆☆☆☆]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行の県立高校将来構想が平成26年度で終期を迎えるに当たり、これまでの成果と課題を検証するとともに、今後のあり方について検討を始めた。 <p>評価 [順調]</p> <p>県立高校将来構想に基づく特色ある学校づくりについては、各校が具体的な取組を着実に推進するとともに、学校・学科の再編整備を計画的に進めた。</p> <p>また、現行の県立高校将来構想は今年度末をもって期限が切れることから、今年度はこれまでの成果と課題をさまざまな視点からさらに検証し、見直しを図る。</p>	
施策名	22 私学の振興
<p>主な取組（25年度の取組状況）</p> <p>■ 私学助成の充実 [☆☆☆]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、高等学校等の教育に係る経常的経費を対象とした補助について、前年度と同額の単価を確保し、全国でも上位の水準を維持したが、今後も一層の充実が求められている。 <p>[H25補助単価全国順位] 高校（全日）17位、中学校43位、幼稚園11位</p>	

■地域に開かれた幼稚園づくりへの支援 [☆☆☆☆]

- ・地域の実情を踏まえた園舎開放や教育時間外の預かり保育など、幼稚園の施設や機能を地域に開放する取組を支援したところ、大半の幼稚園が子育て支援事業に取り組んだ。

[子育て支援を行っている私立幼稚園の割合] H24:93.6% → H25 目標値:96% 実績:96%

■私立学校の耐震化の促進 [☆☆☆]

- ・旧耐震基準の建物が多く、少子化等による厳しい経営環境にある中、国・県の助成制度を活用して耐震化工事に取り組む学校が増加しているが、より一層の取組が必要となっている。

[私立学校(幼・中・高)の耐震化率] H24: 幼77.3%、中高58.1% → H25:79.4%、68.1%

評価 [一部に課題があるが概ね順調]

県民の多様な教育ニーズに対応するため、本県の公教育に大きな役割を果たしている私立学校の教育条件の維持向上や環境整備等に対し、必要かつ適切な支援を継続していく。

施策名 23 修学支援の充実

主な取組(25年度の取組状況)

■経済的理由により修学が困難な生徒・学生に対する支援 [☆☆☆☆]

- ・奨学金の貸し付け等、経済的理由により修学が困難な生徒に対し、各種制度に基づく支援を継続して実施するとともに、送金時期の早期化等、制度運用面での改善を図った。

[奨学金の貸与延べ実績] H24 高校生1,472人、大学生等734人 → H25 高校生1,348人、大学生等770人

■離島高校生に対する支援 [☆☆☆☆]

- ・教育の機会均等の観点から、国の補助制度を活用し、離島に在住する高校生の通学費、居住費等に要する経費を補助する萩市及び周防大島町への支援を行った。

[支援額] H24: 1,688千円 → H25: 2,178千円

■へき地や過疎地域等の児童生徒等の通学に対する支援 [☆☆☆☆]

- ・市町が負担するスクールバスの購入経費について、国の補助制度を活用して支援を行った。

[支援市町] H25: 岩国市、周防大島町

評価 [順調]

生徒・学生に対する修学支援について、送金時期の早期化等、制度運用面の改善に努めた。今後も、奨学金の貸与や各種制度に基づく支援、離島・へき地等に在住する児童生徒等の通学に対する支援を引き続き実施する。

施策の柱3 生涯にわたる県民総参加の教育の推進

施策名	24 家庭教育支援の充実
主な取組（25年度の取組状況）	
<p>■意識啓発・情報提供の推進 [☆☆☆☆]</p>	
<p>・家庭の元気応援キャンペーンの展開やリーフレットの小学校入学時の全保護者への配付など、家庭へ直接届く方法での普及・啓発が図られた。</p>	
<p>[「わが家の約束大募集」の応募数] H24: 5,760人 → H25: 7,041人</p>	
<p>■保護者等への学習機会の提供 [☆☆☆☆]</p>	
<p>・保護者や企業を対象とした出前講座やPTA指導者研修会を実施し、受講者数は増加している。また、全ての市町で家庭教育講座等を実施しており、保護者の学習機会の場が増えつつある。</p>	
<p>[家庭の元気応援出前講座の受講者数(累計)] H24: 3,927人 → H25: 目標 4,800人 実績 5,270人</p>	
<p>■地域における相談・支援体制の充実 [☆☆☆☆]</p>	
<p>・地域で家庭教育支援にあたる家庭教育アドバイザーの養成講座を実施し、修了者は順調に増加している。また、地域ぐるみで子どもを育てる「地域協育ネット」協議会の設置も進んでいる。</p>	
<p>[地域協育ネット協議会設置率] H25: 98.0%</p>	
<p>■専門機関による相談・支援の充実 [☆☆☆☆]</p>	
<p>・子どもと親のサポートセンターの広報活動にも努めており、相談件数も増えている。また、SSW等を配置し、より専門的できめ細かな対応を図っているが、相談内容が複雑・多様化しており、相談支援体制の一層の充実が必要となっている。</p>	
<p>[子どもと親のサポートセンターへの相談件数] H24: 4,133件 → H25: 4,384件</p>	
<p>評価 [順調]</p>	
<p>家庭教育の支援に向け、意識啓発や情報提供に努め、各種講座の開催やアドバイザーの養成も順調に進んでいる。今後、各機関の連携等により、複雑多様化する相談への支援に一層取り組む。</p>	
施策名	25 地域と学校が連携した子どもの育成
主な取組（25年度の取組状況）	
<p>■「地域協育ネット」の全県普及 [☆☆☆☆]</p>	
<p>・全市町・学校への周知や働きかけ等により、各小・中学校や中学校区で地域住民が学校運営に参画する仕組みづくりが進められ、組織的な学校支援活動が行われている学校数は増加している。</p>	
<p>[「地域協育ネット」推進協議会の設置率] H25: 98.0%</p>	
<p>■コミュニティ・スクールの推進 [☆☆☆☆]</p>	
<p>・県・市町担当者の会議や研究指定校の成果報告会等により、学校運営協議会への理解が進み、設置率も向上した。今後は、熟議の質や地域住民・保護者の参画意識の一層の向上を図っていく。</p>	
<p>[コミュニティ・スクール(学校運営協議会設置校)指定校の割合] H25.8: 67.3% → H26.4: 80.1%</p>	
<p>■地域ぐるみの教育を推進するための人材の育成 [☆☆☆☆]</p>	
<p>・「地域協育ネット」コーディネーターやボランティアの養成講座を通して学校支援ボランティア活動の認識が高まり、コーディネーターと併せて活動に参加する地域人材は着実に増加している。</p>	
<p>[「地域協育ネット」コーディネーター養成講座受講者数(累計)] H24: 250人 → H25: 目標 375人 実績: 399人</p>	
<p>■多様な人材の参画による地域ぐるみの活動の推進 [☆☆☆☆]</p>	
<p>・「地域協育ネット」の普及を図る中で幅広く地域住民の参画を促し、退職教員や高校生、企業等の多様な人材の学校支援ボランティアへの参画が見られるようになった。</p>	
<p>[高校生ボランティア参加者数(H25^新)] H25: 延べ 354人</p>	
<p>■放課後子ども教室の充実と放課後児童クラブとの連携 [☆☆☆☆]</p>	
<p>・放課後児童クラブの指導者も参加する研修会において、実践事例発表や情報交換等を行い、指導員のステップアップや教室運営の支援を行っており、教室の設置数は年々増加している。</p>	
<p>[放課後子ども教室の設置数] H24: 184教室 → H25: 199教室</p>	

■「やまぐち教育応援団」制度の活用促進 [☆☆☆☆]

- ・応援団の活用促進を図るため、研修会等を通じて登録や活用の呼びかけを行った。活用数は年々増加しており、平成 25 年度は約 8 割の学校が活用している。

[学校へ支援を行った事業所の割合] H24:79.6% → H25:81.0%

評価 [順調]

コミュニティ・スクールをはじめとした、地域の人材による組織的な学校支援活動、放課後子ども教室や、やまぐち教育応援団の活用など、地域と学校が一体となった教育の充実が図られた。

施策名 26 生涯学習の推進

主な取組（25 年度の取組状況）

■生涯学習情報の提供体制の充実 [☆☆☆☆]

- ・「かがやきネットやまぐち」の学習コンテンツや講座情報等の登録情報の充実を図るとともに県立山口図書館の「図書館ネットワークシステム」による蔵書データの更新等、利便性の向上を図った。

[かがやきネットやまぐちの閲覧数] H24:126,708 件 → H25 目標:129,000 件 実績 131,256 件

■多様な学習機会の提供や活用促進 [☆☆☆☆]

- ・生涯学習推進センターが主催する小学生から一般までを対象とした講座や図書館・博物館の展示、大学やNPO法人の公開講座や体験学習情報の提供など、様々な学習機会の提供を行った。
- ・日本ジャンボリーの「文化の交差点」等で、県内サークルや生涯学習団体等の発表の場を確保した。

[生涯学習推進センター、博物館、図書館の講座・展示数] H24:95 講座 117 展示 → H25:108 講座 126 展示

■学習成果を生かす活動の促進 [☆☆☆]

- ・各種研修会やフォーラムの開催、「かがやきネット通信」の発刊等により、学習成果を生かして地域貢献できる活動の場や先進事例の紹介等を行っており、ボランティア意識の醸成を図っているが「かがやきネットやまぐち」コンテンツ、「発表する」「つながる」の実績は低い水準となっている。

[かがやきネットやまぐちの「発表する」の実績] H24:3,697 件 → H25:1,544 件

評価 [一部に課題はあるが概ね順調]

生涯学習情報の提供体制の充実や多様な学習機会の提供・活用促進を図り「かがやきネットやまぐち」閲覧数の増加や多様な学習機会の提供が図られてきたが、学習成果を生かす活動の促進に一部課題があることから、今後は「地域協育ネット」に係る学校支援のボランティア活動の情報提供などに取り組み、学習成果を生かす活動を一層促進していく。

施策名 27 地域社会における人権教育の推進

主な取組（25 年度の取組状況）

■地域社会における自主的な取組への支援 [☆☆☆☆]

- ・全ての市町で学習講座等が主体的に開設できるよう、市町担当者向けの具体的な演習を取り入れた研修の実施や、学習講座等への補助事業により各市町において取組の定着化が図られた。

[補助事業の活用状況] 県内市町において 183 講座を開催、15,500 人以上の参加

■人権教育指導者の養成 [☆☆☆☆]

- ・人権教育を推進していく指導者を養成するため、市町等の研修講座企画担当者向けに、講座のプログラムづくりやビデオフォーラムの進め方などについて実践的な研修を行い、多くの参加が得られた。また、その結果、市町で実施されたプログラムに多様な内容・手法がみられるようになった。

[地域社会における人権教育指導者養成に係る県教委主催の研修会の受講者数]
H24:230 人 → H25 目標値:増加させる 実績:244 人

■人権に関する資料の整備と活用の促進 [☆☆☆☆]

・人権教育を効果的に進めるために必要な視聴覚資料を選定し、県立山口図書館に整備した。また、利用希望の多いビデオ「ほんとの空」を活用した指導展開例を作成して研修会でビデオフォーラムを開催するなどの取組により、市町や団体等で視聴覚資料が活用された。

[県立図書館視聴覚資料の活用状況(ビデオ貸出本数)] H24:40本 → H25:31本

評 価 [順調]

市町との連携を図りながら、人権教育を推進していく指導者の養成や、人権課題・研修手法等に関する具体的な資料の提供、視聴覚資料の整備や活用促進に取り組んだ。今後とも地域社会における人権教育を一層推進していく。

施 策 名 | 28 文化にふれあい親しむ環境づくりの推進

主な取組(25年度の取組状況)

■学校での優れた芸術にふれる機会の提供 [☆☆☆☆]

・文化庁主催事業、県事業により、実施公演数が大きく伸びて、200公演を超えた。これにより、児童生徒の優れた芸術に対する理解を深めることができた。

[国及び県の主催事業である学校芸術文化ふれあい事業を活用して文化芸術の鑑賞を行った児童生徒の割合] H24:34.7% → H25 目標:現状値の維持向上 実績:37.6%

■文化活動の発表の機会の提供 [☆☆☆☆]

・全国中学校総合文化祭に併せて県中学校総合文化祭が開催され、県内の中学生にとって、貴重な交流と経験の場になった。また、県高等学校総合文化祭の参加人数は増加しており、文化活動に対する関心の高まりが感じられる。

[山口県高等学校総合文化祭の総参加生徒数] H24 延べ2,886人 → H25 延べ3,013人

■県立文化施設等との連携による企画展や講座等の充実 [☆☆☆☆]

・県立文化施設において県内の幼稚園・保育所、小・中・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の幼児児童生徒の造形作品を展覧し、本県美術教育の振興を図った。

[山口県学校美術展覧会入場者数] H24:本展5,427人、巡回展1,000人 → H25:本展5,537人 巡回展1,500人

評 価 [順調]

各取組の推進により、児童生徒が文化に親しむ環境が整い、優れた芸術文化にふれる機会が提供できた。今後も、豊かな感性や創造力をもった児童生徒の育成のため、より一層の取組を推進していく。

施 策 名 | 29 文化財の保護と活用

主な取組(25年度の取組状況)

■新たな文化財の指定と保存・伝承の推進 [☆☆☆☆]

・有形文化財については、国・県の補助金により、修復等を計画通り実施できた。無形文化財についても、国・県補助金や、企業メセナによる支援により発表や上演の機会を設け、市町教育委員会との連携の下、普及啓発の機会の拡大を図った。

[中世城館総合調査に関する縄張り図の作成件数] H24:18件、H25:21件

■文化財を活用した学習機会の提供 [☆☆☆☆]

・文化財修復現場の一般公開や学校での出前講座、ウェブページ等による文化財情報の提供等を行った。特に、埋蔵文化財センターが実施した出土品の速報展示は予想を超えて高い評価を得た。

[文化財出前講座、文化財愛護教室、発掘現場公開説明会への受講又は参加人数(累計)] H24:1,015人→H25 目標:3,500人 実績:6,125人
[県文化財ウェブサイト閲覧件数(HPアクセス数/年)] H24:228,000件→H25 目標:238,000件 実績:240,171件

■「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」の世界遺産への登録推進 [☆☆☆☆]

・平成 27 年度の世界文化遺産登録を目指し、国の指導の下、関係する 8 県 11 市が連携し、予定どおりに進捗している。政府は昨年 9 月に本案件をユネスコへの政府推薦案件として決定し、1 月にユネスコへ正式な推薦書を提出した。

評 価 [順調]

文化財は、国民・県民・市町民の共有の財産であることから、文化財保護法上では、国・県・市町が協力して、その保全に努めることとなっている。今後とも文化財愛護の精神の普及と文化財を利用した郷土に対する愛着の精神の育成に努める。

施 策 名 30 「輝く、夢あふれるスポーツ元気県やまぐち」の実現に向けた取組の推進

主な取組（25 年度の取組状況）

■生涯スポーツの推進 [☆☆☆☆]

・県体育大会や障害者スポーツ大会等を総合的に実施するやまぐち総合スポーツ大会の開催や「スポーツ情報ナビ」の開設による情報提供等により、様々な世代がスポーツに参加できる取組を進めた。

[過去一年間にスポーツを行った県民の割合] H24:50.7% → H25:51.2%

■競技水準の向上 [☆☆]

・ジュニア期からの計画的な選手育成・強化及び競技特性や競技団体の体制に応じた支援を行ったが、東京国体では厳しい結果となった。その要因である、指導者や成年選手の世代交代、中高連携に対して的確に対処し、県競技力の再強化に取り組んでいく。

[国民体育大会総合成績] H24:15 位 → H25 目標:10 位台の維持・定着 実績:32 位

■「人財」の育成 [☆☆☆☆]

・スポーツ少年団相互の交流など活動の活性化に向けた支援を行い、団員の増加や指導者の育成を進めるとともに、講習会等によりクラブマネージャーやスポーツボランティアの育成に取り組んだ。

[総合型地域スポーツクラブ育成数] H24:48 → H25 目標:増加させる 実績:50

■地域の活性化 [☆☆☆☆]

・全市町において「我がまちスポーツ」の取組が実施されるなど、地域交流活動やスポーツ施設の活用が進んでおり、地域の資源や特性を活かした取組が図られている。

[「我がまちスポーツ」への参加者数] H24 : 6 万 5 千人 → H34 目標値 10 万人 H25 : 7 万 5 千人

評 価 [一部に課題はあるが概ね順調]

スポーツ推進条例、スポーツ推進計画に基づいて取組を進めており、競技水準の向上に一層の取組が必要であるものの、取組は概ね順調に進んでいる。今後も施策の総合的・計画的な推進を図っていく。

緊急・重点プロジェクトの評価

(1) グローバル人材育成プロジェクト

具体的な取組内容

◆他国や自国・郷土の文化や伝統を理解し、尊重する態度を育成する教育の推進 [☆☆☆☆]

<p>25年度のプロジェクトの進捗状況</p>	<p>「山口県伝統・文化教材集」の増補及び活用促進、各種会議や学校訪問等での取組状況の把握や好事例の紹介など、県の教育活動の展開に当たっての基軸の一つに位置付けている「地域や伝統・文化を踏まえた教育」を県内の全ての公立学校で実施した。 また、世界で活躍する人材を招いて講演会を行う「グローバルセミナー」の実施、海外留学に係る経費の一部の支援などにより、国際理解の促進を図った。 高校生ボランティアバンクを設置し、高校生の奉仕活動・社会体験の充実を図った。</p>
<p>26年度以降の展開</p>	<p>「地域や伝統・文化を踏まえた教育」の、より一層の推進のため、「やまぐち教育応援団」を積極的に活用し、地域団体との積極的な交流によって、地域の伝統・文化に触れる機会の一層の拡充に努める。 また、高校生の留学支援の充実にも努めるほか、高校生の社会貢献活動を推進するため、ボランティアリーダーの育成とともに、高校生がボランティア活動に自主的・主体的に取り組むことができる仕組み作りを行う。</p>

◆実践的な語学力・コミュニケーション能力の育成 [☆☆☆☆]

<p>25年度のプロジェクトの進捗状況</p>	<p>小中高校生合同のイングリッシュキャンプや高校生英語ディベート大会・セミナー等の開催により、児童生徒が実際に英語を使う機会の充実を図った。 また、全ての県立学校でのALTによるティームティーチング等、多様な場面での活動を通じて、生徒が生きた英語に触れる機会や、英語を使用する機会を拡充した。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>[英検2級・準2級を受験した高校生] H24 2,555人 → H25 2,644人 [英検2級・準2級を合格した高校生] H24 905人 → H25 927人</p> </div>
<p>26年度以降の展開</p>	<p>イングリッシュキャンプの内容の充実と、英語ディベート大会等への参加生徒及び参加教員の増加により、児童生徒による英語の使用機会の拡充を図る。また、ALTとのティームティーチングを活用し、生徒の言語活動の充実を図る。</p>

評価 : [順調]

日本の伝統・文化に触れることの重要性が認識され、各学校で特色ある取組が実践されている。また、イングリッシュキャンプや英語ディベート大会等の創設等により、英語の使用機会が拡充され、実践的な語学力・コミュニケーション能力の育成につながっている。

今後、高校生の留学支援の充実や高校生の社会貢献活動の推進に取り組んでいく。

(2) ものづくり人財育成プロジェクト

具体的な取組内容

◆発達段階に応じたものづくり等への興味・関心の喚起 [☆☆☆☆]

25年度のプロジェクトの進捗状況	<p>学校と家庭、地域との連携強化等により、小学校における職場見学や中学校における職場体験活動の実施率は100%となっている。</p> <p>また、普通科高校対象のインターンシップ推進事業（企画・研究型及び1次産業インターンシップ）の有効活用や「ものづくり教室」、「ものづくりフェスタ」への参加など、体験活動の充実が図られた。</p>
26年度以降の展開	<p>学校と地域社会の連携を一層深め、産業現場における実地セミナーを開催するなど、職場見学や職場体験、インターンシップの取組のさらなる充実を図っていく。</p>

◆企業等と連携したカリキュラムの充実、職業資格取得の促進 [☆☆☆]

25年度のプロジェクトの進捗状況	<p>職業に関する学科を設置する専門高校等12校を指定し、地元企業や産業界と連携した課題解決学習や技術研修等を行うとともに、3月に成果発表会を開催するなど、実践的な知識・技術の習得を図る取組の充実が進んでいる。</p> <p>山口マイスター等の活用や職業資格取得講座開催校の増加も見られるものの、専門的資格取得の支援に一層取り組んでいく必要がある。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">[専門的資格を取得した高校生の数] H24 19.6% → H25 目標 22% 実績 20.1%</p>
26年度以降の展開	<p>地元企業や商工会議所等の産学公と連携した系統的なカリキュラムの実施などを通して、専門性の深化と実践力の向上を図る。さらに、複数の業種理解や知識・技術の定着を図る基礎的な講座の充実を図るとともに、高度な資格取得の促進や全国大会等へ向けた取組の支援など、研修活動や研究活動に係る設備等の支援も含めた総合的な取組を推進する。</p>

◆高校生の就職支援の充実 [☆☆☆☆]

25年度のプロジェクトの進捗状況	<p>新たな取組として、就職サポーター等の配置による広域的な求人求職情報の共有化や連絡協議会の開催、関係機関等との連携強化など、「ガイダンス」や「求人開拓」の充実強化とともに、広域での「マッチング」の推進が図られ、早期内定につなげることができた。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">[高校生の就職決定率] H24 : 97.7% → H25 目標: 向上させる 実績: 99.0%</p>
26年度以降の展開	<p>チーフ就職サポーターによる情報の集約、就職サポーター等への必要な情報の迅速な提供に係る報告書の見直し等を行うことで、業務効率のさらなる向上を図り、県内就職を希望するすべての生徒の早期内定に向けた取組を推進する。</p>

評価 : [一部に課題はあるが概ね順調]

発達の段階に応じた体験活動および実践的な知識・技術の習得の充実、高校生の就職決定率の増加といった効果があったものの、職業資格取得講座の開催などの取組に一部課題が見られるため、今後、高度な資格取得の促進や全国大会等へ向けた取組の支援など、総合的な取組を推進し、ものづくり人材の育成を図っていく。

(3) 確かな学力育成プロジェクト

具体的な取組内容

◆少人数教育の推進 [☆☆☆☆]

<p>25年度のプロジェクトの進捗状況</p>	<p>学習の理解や習熟の程度などに対応するため、少人数指導加配教員を配置し、複数教員による指導や学習集団の編成等の工夫による少人数指導の充実を図ったほか、学力向上推進リーダーや推進教員を配置し、教員の授業力向上を支援した。 児童生徒の状況に応じたきめ細かな指導体制を充実し、学力向上や生徒指導上の諸課題に対応するために、小・中学校全体で35人学級化を実施している。</p>
<p>26年度以降の展開</p>	<p>児童生徒の実態や学習内容等に応じた学習を展開するため、教員の指導力のさらなる向上を図ることとし、引き続き、少人数指導における効果的な指導に学校全体で取り組むなど、校内研修の充実を図っていく。 また、35人以下学級の維持、継続と各学校における取組の成果の検証及び検証結果を踏まえた指導方法・指導形態等の一層の工夫改善を推進する。</p>

◆PDCAサイクルによる授業改善の推進 [☆☆☆☆]

<p>25年度のプロジェクトの進捗状況</p>	<p>4月の全国学力・学習状況調査と10月の学力定着状況確認問題を活用した、学力向上に向けた年2回の検証・改善サイクルが各学校で確立されるよう支援体制づくりに努めた。 また、教員の授業力の向上、生徒の学習習慣の確立を図るため、新たに全ての全日制高校において「公立高校生学習状況等に関するアンケート」を実施し、集計・分析をもとに、各学校へ学力向上に向けた提言を行った。 [全国学力・学習状況調査平均正答率] 目標:小中学校全区分で全国平均を上回る。→ H26:全区分で全国平均を上回った。</p>
<p>26年度以降の展開</p>	<p>年2回の検証・改善サイクルの有効性等を一層周知するとともに、全国学力・学習状況調査等の活用や、その結果を活用するツールの充実、指導方法の改善を行っていく。 「公立高校生学習状況等に関するアンケート」を継続実施するとともに、結果の分析を踏まえ、学力向上に向けた授業改善の一層の推進を図っていく。</p>

◆学校、家庭、地域が一体となった「オールやまぐち」による取組の推進 [☆☆☆]

<p>25年度のプロジェクトの進捗状況</p>	<p>やまぐち学習支援プログラムの基本問題学習プリント（やまぐちっ子学習プリント）について、小学校国語・算数の基本問題の改訂を行った。 県内大学で実施する高校生講座への高校生徒の参加や高校教員による大学での特別講義の実施など、高大連携を推進した。</p>
<p>26年度以降の展開</p>	<p>全ての学校が、自校の学力の状況等に関する情報を、保護者や地域に提供している現状を維持するとともに、内容を一層充実させる。さらなる活用促進のために、先進的な取り組みをしている学校の事例を紹介するなど、各学校へ具体的な助言をしていく。</p>

評価 : [一部に課題はあるが概ね順調]

取組は概ね順調に推進されているが、学力に関する年2回の検証改善サイクルの確立には課題が見られる。今後は、「やまぐち学習支援プログラム」を活用した学習内容の充実に加え、学力分析支援ツールを作成・提供し、学力データのきめ細かな分析結果を指導改善につなげるなど、取組を一層充実させていく。

(4) 豊かな心育成プロジェクト

具体的な取組内容

◆国の動向を踏まえた道徳教育の推進 [☆☆☆☆]

25年度のプロジェクトの進捗状況	小・中学校においては、学習指導要領に基づき、道徳教育全体計画を作成し、県教委作成の指導資料「心を育む学習プログラム」等を有効に活用して道徳教育の推進を図った。また、高等学校については、全ての学校が道徳教育全体計画の作成を終え、具体的な取組が進んだ。各学校で全県共通テーマ「豊かな心を育む教育の推進」を踏まえた取組が積極的に進められている。
26年度以降の展開	今後も、中教審で審議中である道徳の教科化についての動向を注視するとともに、平成25年度に新たに策定した「いじめ防止基本方針」等も踏まえながら、道徳教育を一層充実させていく必要がある。

◆体験活動・文化芸術活動の充実 [☆☆☆☆]

25年度のプロジェクトの進捗状況	全国中学校総合文化祭と県中学校総合文化祭が併せて開催され、全国から参加者があり、県内中学生にとって貴重な経験となった。また、学校芸術文化ふれあい事業等の充実に努め、200を越える公演により、優れた芸術に対する理解を深めることができた。また、「心の冒険サマースクール」の開催や「AFPYの手引き」の充実等に取り組み、特色ある体験活動を積極的に推進した。
26年度以降の展開	児童生徒が本物の舞台芸術等にふれあえる環境づくりを推進するとともに、児童生徒の文化芸術活動を支援するなどの取組を充実していく。体験活動については、AFPY等のプログラムの活用を一層図るなど、計画的・積極的な取組を促進していく。

◆いじめ・不登校対策等のための相談体制の整備充実 [☆☆☆]

25年度のプロジェクトの進捗状況	<p>スクールカウンセラーを全中学校区へ配置するとともに、スクールソーシャルワーカーを9市町へ配置し、支援を受けられる体制を整備・拡充した。今後も、学校だけでは解決困難な事例に対応するSSWの市町への配置を一層推進していく必要がある。</p> <p>また、「児童生徒のインターネット利用対策会議」を設置し、インターネットによるいじめや犯罪等への今後の取組等について検討した。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>[1000人当たりの不登校児童生徒数] H23:小中9.7人 高5.1人 → H24目標:減少させる 実績:小中9.5人 高5.1人</p> <p>[1000人当たりの暴力行為の発生件数] H23:4.2件 → H24目標:減少させる 実績:4.7件</p> </div>
26年度以降の展開	スクールカウンセラーの配置体制の充実やスクールソーシャルワーカーの市町への配置の拡充、また、PTAや関係機関と連携してインターネットによるいじめ・犯罪等への対応の充実を図るなど、今後も学校・家庭・地域・関係機関の連携を図りながら、社会総がかりで、いじめの防止・根絶に取り組んでいく。

評価 : [一部に課題はあるが概ね順調]

子どもたちの豊かな心を育むため、道徳教育の推進、体験活動や文化芸術活動の充実等に努めた。いじめ・不登校対策等については、学校だけでは解決困難な事例に対応するSSWの市町への配置を一層推進する等の必要がある。今後は、いじめの防止・根絶に向け「山口県いじめ防止基本方針」に基づき、社会総がかりでの取組を促進していく。

(5) 子ども元気創造プロジェクト

具体的な取組内容

◆子どもたちの望ましい食習慣・生活習慣の確立 [☆☆☆☆]

<p>25年度のプロジェクトの進捗状況</p>	<p>「子ども元気創造推進協議会」を設立し、新たに作成した『食事、運動・遊び、読書』90日元気手帳」の取組について、効果的な推進の在り方を検討するとともに、子ども元気調査の結果から、子どもの抱える課題を共有した。</p> <p>学校においては、栄養教諭を増員して食育の推進体制を充実するとともに、取組事例の紹介を通じて、献立の工夫や食に関する指導の促進を図った。</p> <p>[朝食を毎日摂っている児童生徒の割合] H24:小90.1% 中87.8% →H25 目標:増加させる 実績:小92.5% 中89.6%</p>
<p>26年度以降の展開</p>	<p>望ましい生活習慣を身につけるための学校や家庭・地域との連携について、優れた事例を収集し、研修会や学校訪問の機会を活用して取組を県内に普及していく。</p> <p>「子ども元気創造推進協議会」において、子どもの生活習慣に関する課題を共有し、関係者がそれぞれの立場で取り組める生活習慣向上の方策について検討していく。</p>

◆子どもたちの運動機会の確保と運動習慣の定着 [☆☆☆]

<p>25年度のプロジェクトの進捗状況</p>	<p>小学校低学年期の体育授業の充実を図るため、各種研修会の開催、「体育授業マイスター」の派遣等を行ったことにより、各学校における体力向上の取組の活性化が図られた。また、運動習慣が定着していない生徒への運動機会提供を目指した「総合スポーツ部(仮称)」の研究や設置の効果を周知したことにより、問題意識の共有を図ることができたが、今後、指標の達成に向け、各学校の課題に応じた具体的な取組の充実が必要である。</p> <p>[全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の県平均点] H24:小5男53.6点 → H25 目標:53.8点 実績:53.4点 小5女54.4点 → H25 目標:54.6点 実績:54.6点 H24:中2男41.5点 → H25 目標:41.7点 実績:41.0点 中2女48.5点 → H25 目標:48.7点 実績:48.6点</p>
<p>26年度以降の展開</p>	<p>技術指導者だけでなくトレーナーや栄養士など、広い視点から子どもたちの活動を支えていく必要がある。また、研修会等に多くの教職員が参加できるように時期・場所の工夫を行うとともに、各学校での体力向上に向けた様々な取組が組織的な取組として検証・改善が図られるよう推進していく。</p>

◆子どもたちの読書興味の喚起と読書習慣の定着 [☆☆☆☆]

<p>25年度のプロジェクトの進捗状況</p>	<p>『食事、運動・遊び、読書』90日元気手帳」を全小学生に配布し、望ましい生活習慣の定着を図る一体的な取組の中で、読書の習慣が身につくよう促した。</p> <p>また、学校図書館関係者、公立図書館職員、読書ボランティア等に対する研修を実施し、子どもの読書活動に関わる人材の育成に努めることにより読書活動の活性化を図った。H26年3月に「山口県子ども読書活動推進計画第3次計画」を策定・公表した。</p> <p>[読書が好きと感じている児童生徒の割合] H25.4小72.3%、中73.2% → H26.4 目標:増加させる 実績:H26.8公表</p>
<p>26年度以降の展開</p>	<p>「山口県子ども読書活動推進計画第3次計画」に基づき、学校・家庭・地域の連携や読書関係者向け研修の充実等により子どもの読書活動を一層推進していく。</p>

評価 : [一部に課題はあるが概ね順調]

子どもの望ましい生活習慣の定着に向けて、「食育」「遊び・スポーツ」「読書」に一体的に行ってきたが、一部の指標達成に不十分な点がある。今後は、さらに各領域の取組の連携を図りながら個々の取組の推進を図っていく。

(6) 魅力ある学校づくりプロジェクト

具体的な取組内容

◆特色ある学校づくりと県立高校の再編整備 [☆☆☆☆]

<p>25年度の プロジェクト の進捗状況</p>	<p>特色ある学校づくりに向け、各校が「めざす学校像」「育てたい生徒像」を明確にした具体的な取組を進め、個性化・多様化を図る教育活動の充実に努めた。 また、各学校が学校HPを充実させるとともに、県教委が新たに学校紹介HPを立ち上げ、各学校の特色について周知を図った。 県立高校の再編整備については、平成24年度から平成26年度までの「県立高校再編整備計画」に基づき、計画的に取り組んできた。</p>
<p>26年度 以降の展開</p>	<p>社会の変化や生徒のニーズの多様化等に対応し、より質の高い高校教育を提供するため、現行の県立高校将来構想の検証と見直しを進め、平成26年度中に次期構想を策定し、これに基づいて、より質の高い高校教育の実現に向けて取り組んでいく。 また、平成28年度からの全日制普通科の通学区域全県1区化に向け、さらなる特色ある学校づくりを推進するとともに、学校・学科等の再編整備については、現行計画に基づき、計画的に進めていく。</p>

◆児童生徒数の増加等に対応した総合支援学校の整備ときめ細かな支援体制の充実 [☆☆☆]

<p>25年度の プロジェクト の進捗状況</p>	<p>新たに関係機関による連絡会議を立ち上げ、検討を進めるなど視覚・聴覚障害教育センターの設置準備を推進し、平成26年度の設置につなげた。 タブレット型情報端末の障害種ごとの効果的な指導方法の確立、事業報告会による成果の普及など、ICTを活用した指導方法の研究等を行った。 「山口県特別支援教育ビジョン」の第2期実行計画の見直しを行い、平成26年3月に公表した。 また、児童生徒数の増加に対応するため、総合支援学校の整備についての基本方針を検討するとともに、職業教育の充実に向けた教育環境の整備の検討を行った。今後、検討結果に基づいて取組を進めていく必要がある。</p>
<p>26年度 以降の展開</p>	<p>見直した「山口県特別支援教育ビジョン」の第2期実行計画に基づき、今年度に設置した視覚・聴覚障害教育センターにおける連携の強化や、児童生徒数の増加等に対応した計画的な施設整備、職業教育の充実に向けた教育環境の整備を総合的に進める。</p>

評 価 : [一部に課題はあるが概ね順調]

各学校において特色ある学校づくりを着実に進めるとともに、県立高校の再編整備を計画的に行っていく。
総合支援学校においてはきめ細かな支援体制を整備しているが、児童生徒数の増加への対応や職業教育の充実に向けた取組などに課題があるため、今後、教育環境の整備や高等部の産業科の見直し等に取り組んでいく。

(7) 安心・安全な学校づくりプロジェクト

具体的な取組内容

◆公立学校の耐震化の推進 [☆☆☆]

<p>25年度のプロジェクトの進捗状況</p>	<p>県立学校の耐震化は、計画どおりに耐震補強等が完了した一方で、屋内運動場の天井等落下防止対策は、年度途中で国の対策基準等が示されたため、設計業務の発注時期が遅延し、計画どおりの進捗を図ることができず、予算を繰り越すこととなった。</p> <p>また、市町立幼・小・中学校の耐震化については、国の目標年度である平成27年度末の耐震化完了に向け、補正予算の活用による事業前倒しを行うなど、各市町とも取組を進めた結果、耐震化率は上昇したが、一方で、7市が目標年度末での耐震化完了が困難な状況となっている。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>[県立学校の耐震化率] H25.4: 93.6% → H26.4: 95.1%</p> <p>[市町立小・中学校の耐震化率] H25.4: 74.8% → H26.4: 80.8%</p> <p>[市町立幼稚園の耐震化率] H25.4: 47.3% → H26.4: 52.7%</p> </div>
<p>26年度以降の展開</p>	<p>目標年度末の耐震化完了に向け引き続き取組を進めるとともに、目標年度末の耐震化完了が困難な7市に対し、目標年度末での耐震化完了を強力かつ継続的に働きかける。</p>

◆防犯を含む生活安全、交通安全及び災害安全の取組の推進 [☆☆☆]

<p>25年度のプロジェクトの進捗状況</p>	<p>「山口県学校安全推進計画」策定の取組を進めたが、完成・公表には至らなかった。</p> <p>「通学路の安全確保に向けて」を作成し、市町教委・県立学校への配付とともに、全市町に通学路安全対策アドバイザーを派遣した結果、登下校中の交通事故発生件数の減少等の成果があった。</p> <p>全公立学校への携帯メールによる学校安全情報配信システムは、小・中・高・特の整備率は95%を超えたが、幼稚園の整備率が20%台と低い状況であった。</p> <p>また、若手教職員を対象とした研修会実施や学校が実施する避難訓練への防災アドバイザーの派遣等、防災対応力等の向上を図るとともに、全県立学校に衛星携帯電話を整備し、災害時対応に備えた。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>[児童生徒の登下校における交通事故件数] H24: 小15件、中28件、高75件 → H25 目標: 減少させる 最新: 小11件、中14件、高73件</p> <p>[携帯メールによる情報配信システムを整備している公立学校の割合] H24: 81.2% → H25 目標: 増加させる 最新: 89.7%</p> </div>
<p>26年度以降の展開</p>	<p>「山口県学校安全推進計画」の策定、効果的な避難訓練の実施や継続的な研修会実施により児童・生徒、教職員等の防災意識・防災対応力を向上させるとともに、計画的な防災備品の整備等の実施により、被災時における児童・生徒等の安全確保に努める。</p>

評価 : [一部に課題はあるが概ね順調]

耐震化について、県立学校施設は、目標達成等に向け順調に推移しているが、市町立学校施設は耐震化完了の目標年度での達成が困難な状況にあり、市町に対し、引き続き強力に働きかけていく。

また、「山口県学校安全推進計画」の策定、活用や効果的な避難訓練の継続的な実施等により、防犯を含む生活安全、交通安全、災害安全の取組をさらに推進する。

さらには、各学校で想定される災害や被災の規模等を総合的に勘案の上、必要な防災備品等の整備に向けた検討等を進めていく。

(8) 教職員人財育成プロジェクト

具体的な取組内容

◆大学等との連携による優秀な教員の確保 [☆☆☆☆]

<p>25年度のプロジェクトの進捗状況</p>	<p>新たに「山口県教員養成等検討協議会」を設置し、高校生教職セミナーの開催や教職説明会の拡大、大学訪問の強化や教員志望者サポートメールなど、教育委員会・学校、大学等が一体となって取組を推進した。 質の高い教員志願者の養成のため、「教育実習の充実に向けた研修会」を新たに開催するとともに、「学校体験制度」など、継続した取組の充実を行った。 また、実践的な指導力を培うための「採用前教職インターンシップ」の試行実施や、「山口県教育関係人材データベース」の作成など、計画的に取組を進めた。</p>
<p>26年度以降の展開</p>	<p>教員志望者の実践的指導力を育成するため、大学と連携して山口県独自の教師塾の仕組みを構築するとともに、教師塾の成果を活用し、新規学卒者を対象とした長期的・多面的な評価による新たな教員採用選考制度の調査研究を進めるなど、今後も、教員養成等検討協議会により、県内大学と連携した取組を進める。</p>

◆研修の充実や教職大学院の活用による「学び続ける教職員」の養成 [☆☆☆☆]

<p>25年度のプロジェクトの進捗状況</p>	<p>教職員人財育成基本方針に基づき、学校、市町教育委員会、県教育委員会が一体となった人材育成の取組を推進するとともに、やまぐち総合教育支援センター等での効果的な研修を実施し、目標を上回る人数が参加した。 また、「山口県教員養成等検討協議会」を設置し、山口県の実情に応じた教職大学院の在り方について協議を重ね、山口大学が教職大学院を設置する方向で方針を決定した [やまぐち総合教育支援センター研修(サテライト研修等を含む)の受講者数] H24:12,701人→H25:14,279人</p>
<p>26年度以降の展開</p>	<p>リーダー養成研修や主任研修等の充実により若手・中堅段階の研修の強化、教職員のキャリアステージ(教職経験)に応じた、計画的・継続的な研修の充実を図る。 山口大学に設置予定の教職大学院を活用した現職教員研修システムの構築に向け、山口大学と連携し、教職生活全体を通して学び続ける教職員を支援する体制づくりを行う。</p>

◆学校運営・校内指導体制の充実 [☆☆☆☆]

<p>25年度のプロジェクトの進捗状況</p>	<p>教育力向上指導員や学力向上推進リーダー等の活用を推進し、学校で講師や示範授業・指導等を行うことにより、授業力の向上や校内研修の充実が図られた。 分校等を有する大規模高等学校4校に副校長を配置するとともに、副校長連絡協議会を開催し、課題の明確化・解決を図り、副校長職の効果的な運用に向けた取組を進めた。 また、事務の共同実施拠点校4校への「事務長」の設置に向け検討を進めた。</p>
<p>26年度以降の展開</p>	<p>教育力向上指導員の講師としての活用促進や学力向上推進リーダーの増員による教員の教育力向上を図るとともに、初任者を学校全体で指導する体制の整備や若手の人材育成に係る校内研修の充実等、初任者等が研修に専念できる体制の構築を重点的に行う。 また、副校長、小中学校事務長の設置による効果の検証を行うとともに、主幹教諭の設置に向けた検討を進める。</p>

評価 : [順調]

教員の育成や学校運営の充実など、各取組を計画的に進めることができた。今後も意欲と実践的指導力を有する教職志願者の確保や現職教員の育成に一層努めるとともに、学校運営・校内指導体制の充実に向けた取組を推進し、複雑化・多様化する教育課題に的確に対応できる教職員の育成を一層進めていく。

(9) 地域ぐるみの教育推進プロジェクト

具体的な取組内容

◆「地域協育ネット」の全県普及と活動の充実 [☆☆☆☆]

<p>25年度のプロジェクトの進捗状況</p>	<p>学校・家庭・地域が連携・協働して、地域ぐるみで子どもの育ちを支える中学校区をひとまとまりとする「地域協育ネット」の仕組みづくりを普及促進し、協議会設置率は全県で98%となった。</p> <p>また、地域の住民が学校運営に参画するコミュニティ・スクールの設置が進み、設置率80.1%となり、全国1位となった。</p> <p>地域人材の育成に向けては、学校と家庭・地域を結ぶコーディネーターや家庭教育アドバイザー養成講座の開催、多様な企業や人材を活用する「やまぐち教育応援団」の活用促進を進めた。</p> <p>また、放課後子ども教室と児童クラブとの連携促進のため、合同の指導者研修会を実施し、延べ530名が参加するなど、交流が深まった。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">[コミュニティ・スクール（学校運営協議会設置校）指定校の割合] H25:67.3% → H26:80.1%</p>
<p>26年度以降の展開</p>	<p>地域協育ネット協議会の設置率100%を達成し、地域協育ネットの「仕組み」を計画的、安定的に機能させるため、土曜の教育活動の推進など、内容の充実を図っていく。</p> <p>そのため、直接学校に出向いての「熟議の場づくり応援出前講座」の開催や「やまぐち教育応援団」のさらなる活用促進に取り組む。</p> <p>国から、放課後子ども教室と児童クラブの一体型を中心とした計画的な整備の方向性が示されており、今後関係部局と連携した動きが必要となる。</p>

◆山口県の先人について世代を越えて学ぶ三世代交流教育の推進 [☆☆☆☆]

<p>25年度のプロジェクトの進捗状況</p>	<p>「三世代交流教育講座」を年4回実施し、多くの参加者があった。</p> <p>また、セミナーパーク内に、先人学習の拠点となる「先人学習コーナー」を開設し、松下村塾の模築、先人紹介パネル（46名分）の設置、先人の関連書籍の整備等を行うとともに、Webページ「平成の松下村塾」を開設し、先人学習情報等を発信した。</p>
<p>26年度以降の展開</p>	<p>山口県セミナーパークにおける「平成の松下村塾」（三世代交流教育講座）の開催や映像教材（DVD）の作成等により、山口県の先人の歴史や伝統等について、三世代交流教育を推進する。</p>

評価： [順調]

「熟議の場づくり応援出前講座」による組織の内容の充実や、計画的なコーディネーター養成、やまぐち教育応援団による企業や人材活用の促進により、学校・家庭・地域が連携・協働するシステムの充実が着実に図られた。

現在全国トップのコミュニティ・スクールの小中学校への設置率については、100%をめざす。今後も、土曜の教育活動の推進など「地域協育ネット」の仕組みの計画的、安定的な活用を図っていく。放課後子ども教室と児童クラブの連携促進や一体的な運営については、国の動向を注視し、対応を検討する。

また、山口県で生まれ育った先人などの歴史等について、世代を超えて学べる講座の開催など、三世代交流教育を一層進めていく。

(10) 世界スカウトジャンボリー開催プロジェクト

具体的な取組内容

◆開催機運の醸成とボーイスカウト日本連盟の取組支援 [☆☆☆☆]

25年度のプロジェクトの進捗状況	<p>日本ジャンボリーの開催に向け、100日前イベントやクリーンアップ運動等を行ったほか、終了後には、インフォメーションボードの更新やミニジャンボリーの開催等、世界スカウトジャンボリーに向けたPR活動を行い、県民機運の醸成が図られた。</p> <p>また、ボーイスカウト日本連盟に対し、日本ジャンボリーにおける場内プログラムや地域プログラムの取組支援を積極的に行い、県民団体の参画促進に繋げた。</p>
26年度以降の展開	<p>世界スカウトジャンボリーに向け、機運醸成のためのPRを一層図るため、PRステージキャラバン等による戦略的な情報発信に努めるほか、各プログラムの取組支援においても、地域プログラムにおける各市町の実施体制や庁内での連携推進体制の強化等により、大会の準備や会場地におけるスカウトの受入基盤の確立を図る。</p>

◆大会を契機とした国際教育の推進と青少年の健全育成 [☆☆☆☆]

25年度のプロジェクトの進捗状況	<p>日本ジャンボリーでは、地域プログラムにおける学校訪問（82校）において、児童生徒主体による様々な交流活動を実施したほか、代表生徒が、大会会場を訪問し、海外スカウトとの交流を実施した。</p> <p>また、参加国事典を活用した事前事後学習にも取り組み、ジャンボリーを契機とした国際教育の推進等が図られた。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block;">[ジャンボリーを活用した国際教育の取組を実施した学校の割合] H25 : 90.7%</p>
26年度以降の展開	<p>世界スカウトジャンボリーの地域プログラムは、全市町で実施すること等から、市町、学校等とのより緊密な調整を図っていくとともに、英語教育の充実や語学ボランティア等のサポート体制を構築していく。また、「参加国事典」についても、事前事後学習が大会での有意義な交流や大会を契機とした新たな交流に資するように取り組んでいく。</p>

◆大会での「県民力」「地域力」の発揮 [☆☆☆☆]

25年度のプロジェクトの進捗状況	<p>日本ジャンボリーの場内プログラムである「文化の交差点」では県内の6団体が参加し、本県の伝統文化の発信等を行ったほか、会場内に、県民団体が日頃の学習成果を発表する「やまぐち魅力発信広場」を設置し17団体が出演した。</p> <p>また、地域プログラムにおける各市町の取組支援や場外プログラム（自然探求、クライミング等）の取組支援を行い、大会を契機とした「県民力」「地域力」の発揮に繋げた。</p>
26年度以降の展開	<p>世界スカウトジャンボリーでは、県主催の「やまぐちジャンボリーフェスタ」を同時開催するほか、地域プログラムに係る市町の取組支援においても、県域の連絡調整会議の開催や全庁的な取組の推進体制を強化することにより、県民の力、地域の力のさらなる発揮に向けた取組を推進していく。</p>

評価 : [順調]

ブレ大会である日本ジャンボリーにおける、地域プログラム等の取組支援、参加国事典を活用した事前事後学習、「やまぐち魅力発信広場」への生涯学習団体の出演などの県民力・地域力の発揮等により、本県の国際教育の推進が図られるとともに、世界スカウトジャンボリー成功に向け、成果と課題を踏まえた方策が検討されるなど、概ね計画どおりに進捗している。

主な推進指標の進捗状況

指標	基準値(H24)	中間目標(H25)	実績値	目標値(H29)
「1/2成人式」や「立志式」を行っている公立学校の割合	小63.2%, 中14.6%	増加させる	小91.4%, 中66.9%	小100.0%, 中100.0%
体験的なキャリア教育を実施した公立学校の割合	小100%, 中100%, 高90.7%	増加させる	小100%, 中100%, 高94.5%	小100%, 中100%, 高100.0%
小中高の3校種で合同研修を行う「授業づくり研修会」に参加した教員数	195名	増加させる	278名	500名
英検2級及び準2級を受験した高校生の数	2,555人	3,000人以上	2,644人	3,000人以上
英検2級及び準2級に合格した高校生の数	905人	1,000人以上	927人	1,000人以上
専門的資格を取得した高校生の数	19.60%	22%	20.1%	25.0%
全国学力・学習状況調査平均正答率	(H25) 山口県(全国) 小 国A 64.3%(62.7%) 国B 50.2%(49.4%) 算A 77.9%(77.2%) 算B 59.9%(58.4%) 中 国A 77.3%(76.4%) 国B 68.3%(67.4%) 数A 65.5%(63.7%) 数B 44.2%(41.5%)	(H26) 小中学校の 全区分で 全国平均を 上回る	(H26) 山口県(全国) 小 国A 73.6%(72.9%) 国B 57.8%(55.5%) 算A 79.5%(78.1%) 算B 58.6%(58.2%) 中 国A 80.7%(79.4%) 国B 52.4%(51.0%) 数A 70.3%(67.4%) 数B 62.6%(59.8%)	小中学校の全区分 で全国平均を上回る
勉強が「好き」「どちらかといえば好き」である児童生徒の割合	(H25) 小62.2% 中59.0%	(H26) 増加させる	(H26) 小62.5% 中60.6%	増加させる
ジャンボリーを活用した国際教育の取組を実施した学校の割合	—	100%	90.70%	100.00%
読書が好きと感じている児童生徒の割合	(H25) 小72.3%、中73.2%	(H26) 増加させる	(H26) 小73.5%、中73.1%	増加させる
学校以外で月に1冊も本を読まない児童生徒の割合	小23.8%、中10.1%	減少させる	小22.5%中10.6%	減少させる
人権教育に関するサテライト研修等への講師派遣の回数	27回	30回	32回	50回
体育の授業以外に運動や外遊びをほとんど毎日(週3日以上)行っている児童生徒の割合	小5男64.1% 小5女38.7% 中2男89.9% 中2女65.1%	65.0% 39.9% 90.3% 65.4%	65.4% 38.1% 88.9% 64.3%	69.0% 45.0% 92.0% 67.0%
全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の県平均点	小5男53.6点 小5女54.4点 中2男41.5点 中2女48.5点	H25:53.8点 H25:54.6点 H25:41.7点 H25:48.7点	53.4点 54.6点 41.0点 48.6点	54.6点 55.4点 42.5点 49.5点
朝食を毎日摂っている児童生徒の割合	小90.1% 中87.8%	増加させる	小92.5%中89.6%	増加させる
朝食を毎日摂り、排便が毎日ある児童生徒の割合	小男72.8% 小女67.4% 中男76.9% 中女58.4%	増加させる 増加させる 増加させる 増加させる	71.7% 68.1% 78.5% 60.6%	増加させる
総合支援学校高等部の就職希望生徒の就職率	98.40%	向上させる	95.9%	向上させる
発達障害等のある幼児児童生徒が在籍している公立学校の個別の指導計画の作成率	96.0%	97%	97.1%	(H28) 100.0%
発達障害等のある幼児児童生徒が在籍している公立学校の個別の教育支援計画の作成率	95.7%	96.7%	96.9%	(H28) 100.0%
幼稚園・保育所等と連携した取組を実施している公立小学校の割合	77.20%	100%	100%	100.0%
1000人当たりの不登校児童生徒数	(H23) 小中9.7人 高5.1人	(H24) 減少させる	(H24) 小中9.5人高5.1人	減少させる

指標	基準値(H24)	中間目標(H25)	実績値	目標値(H29)
「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と思っている児童生徒の割合	(H25) 小81.1%中77.4%	(H25) 増加させる	(H26) 小84.4%中78.7%	増加させる
いじめの解消率	(H23) 88.4%	(H24) 増加させる	(H24) 94.0%	向上させる
1000人当たりの暴力行為の発件数	(H23) 4.2件	(H24) 減少させる	(H24) 4.7件	減少させる
高校生の就職決定率	97.7%	向上させる	99.0%	向上させる
中学校・高校卒業者のうち進路決定者の割合	中98.9%、高97.8%	増加させる	中98.9%、高97.7%	増加させる
AFPYアドバイザーの登録者数	—	20人	21人	100人
博物館の出前授業、館内授業の年間利用者数	18,384人	20,000人	23,195人	20,000人
県立学校の耐震化率	(H25) 93.6%	(H26) 95%	(H26) 95.1%	H27未完了
市町立小・中学校の耐震化率	(H25) 74.8%	(H26) 82%	(H26) 80.8%	H27未完了
市町立幼稚園の耐震化率	(H25) 47.3%	(H26) 55%	(H26) 52.7%	H27未完了
携帯メールによる情報配信システムを整備している公立学校の割合	81.20%	増加させる	89.7%	100.0%
児童生徒の登下校における交通事故件数	小15件、中28件、高75件	減少させる	小11、中14、高73	減少させる
やまぐち総合教育支援センター研修の受講者数	12,701人	増加させる	14,279人	15,000人
コミュニティ・スクール(学校運営協議会設置校)指定校の割合	(H25) 67.3%	(H26) 70%	(H26) 80.1%	80.0%
保護者や地域住民等を評価者とした学校関係者評価を実施している公立学校の割合	95.50%	向上させる	100.0%	100.0%
異校種間の授業参観や情報交換会を実施した公立学校の割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
各高校で開催される体験入学や学校説明会に参加した中学生の延べ人数	17,645人	18,100人	17,820人	20,000人
子育て支援を行っている私立幼稚園の割合	93.6%	96.0%	96.0%	100.0%
私立学校(幼・中高)の耐震化率	(H25) 幼77.3%、中高58.1%	(H26) 74.2%、67.7%	(H26) 79.4%、68.1%	100.0%、100.0%
家庭の元気応援出前講座の受講者数(累計)	3,927人	4,800人	5,270人	8,300人
地域協育ネットコーディネーター養成講座受講者数(累計)	250人	375人	399人	875人
かがやきネットやまぐちの閲覧数	126,708件	129,000件	131,256件	165,000件
地域社会における人権教育指導者養成に係る県教委主催の研修会の受講者数	230人	増加させる	244人	300人
国及び県の主催事業である学校芸術文化ふれあい事業を活用して文化芸術の鑑賞を行った児童生徒の割合	34.70%	現状値の維持向上	37.6%	現状値の維持向上
文化財出前講座、文化財愛護教室、発掘現場公開説明会への受講又は参加人数(累計)	1,015人	3,500人	6,125人	7,000人
県文化財ウェブサイト閲覧件数(HPアクセス数/年)	228,000件	238,000件	240,171件	278,000件
県民のスポーツ実施率	62.3%	(H34) 全国トップレベル	次回調査H28	(H34) 全国トップレベル
国民体育大会総合成績	15位	10位台の維持・定着	32位	10位台の維持・定着
「我がまちスポーツ」への参加者数	65,000人	(H34) 100,000人	75,000人	(H34) 100,000人